

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 9
沼 田 東 小 学 校	5 3
沼 田 北 小 学 校	5 7
升 形 小 学 校	6 1
利 南 東 小 学 校	6 5
池 田 小 学 校	6 9
薄 根 小 学 校	7 3
川 田 小 学 校	7 7
白 沢 小 学 校	8 1
利 根 小 学 校	8 5
多 那 小 学 校	8 9
沼 田 中 学 校	9 3
沼 田 南 中 学 校	9 7
沼 田 西 中 学 校	1 0 1
沼 田 東 中 学 校	1 0 5
池 田 中 学 校	1 0 9
薄 根 中 学 校	1 1 3
白 沢 中 学 校	1 1 7
利 根 中 学 校	1 2 1
多 那 中 学 校	1 2 5
利 南 幼 稚 園	1 2 9
薄 根 幼 稚 園	1 3 3

沼田中学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801番地1
電話番号 0278-23-1116 FAX 22-9856
校長名 木樽 一秀

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標 【美しい心 高い知性 強い身体を磨く生徒】

(2) 経営目標

(目指す学校像)

- ・子どもが「通いたい」と思う学校
- ・保護者が「通わせたい」と思う学校
- ・地域の方が「応援したい」と思う学校

(目指す教師像)

- ・生徒のよさを見いだし、自ら範を示す教師
- ・夢と情熱をもち、専門性を磨く教師
- ・地域を愛し、地域に学ぶ教師

(3) 本年度の重点目標 『創造』 ～生徒のさらなる成長を願い、考え、創り出す～
～自分たちのよりよい学校生活を願い、考え、創り出す～

2 経営方針

- (1) 質の高い教育活動の推進に向けた組織的な校務運営と教職員の資質向上
- (2) 自他を大切にし、思いやりと規範意識をもった「豊かな心」の育成
- (3) 培う資質・能力の明確化と主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の育成
- (4) 生涯にわたって運動に親しむ基盤となる「健やかな体」の育成
- (5) 安全で安心な居場所づくりと、潤いのある学習環境の整備
- (6) 地域の次代を担う人材の育成を視野に入れた地域と学校の連携・協働

3 本年度の重点施策

① 【沼田市・先生の日】

- ・学習指導要領の全面实施と指導と評価の一体化
- ・主任等の指導助言、連絡調整機能の充実と、教職員全員による共通理解・共通実践
- ・日々の授業改善に繋がる校内研修と人事評価制度等を活用した職員個々の職能成長
- ・特別な配慮を必要とする生徒への組織的・計画的な指導の工夫・充実
- ・業務改善の推進及び部活動運営方針の確実な実施による働き方改革の推進

② 【SNSルール】

- ・生徒が自己有用感、自己肯定感を高められるような主体的な取組の支援と価値付け
- ・「凡事徹底」「脚下照顧」「知行合一」の励行と自己の生き方を考えられる生徒の育成
- ・特別活動での目指す資質・能力を意識した指導と道徳科を要とした道徳教育の充実
- ・命を守る心を育てる「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用
- ・沼田中学校SNS利用ルールの活用による生徒の意識の向上

③ 【振り返り学習】

- ・一単位時間のねらいの明確化と、ねらいの達成につながる学習活動の工夫
- ・関心・意欲を高める導入、学習の「見通し」「振り返り」の実践と「主体的な学び」の工夫
- ・生徒が、見方・考え方を働かせながら、既習事項を相互に関連付けて深く理解したり考えたり創造したりするような「深い学び」の工夫
- ・GIGAスクール構想に伴うICTを活用した授業の実践
- ・数学のTT指導の充実と「参観ウィーク」の実施による教師同士の学び合いの工夫

④ 【教育部活】

- ・「体力向上プラン」を活用した、学校課題の明確化と課題解決に向けた取組の充実
- ・自己の体力向上や技能習得に向け、主体的に課題解決できる保健体育の授業や体育的行事の充実
- ・「沼田中学校部活動運営方針」に基づく生徒の主体性・リーダーシップや規律・礼節を重視した教育部活動の推進

・調和のとれた生活習慣と自己の健康管理の重要性を意識して生活できる生徒を育成するような授業や専門委員会活動、学校保健委員会等の実施・「体力向上プラン」を活用した、学校課題の明確化と課題解決に向けた取組の充実

・自己の体力向上や技能習得に向け、主体的に課題解決できる保健体育の授業や体育的行事の充実

⑤ 【セーフティ沼田】【命を守り育てる指導】【小中連携・一貫教育】

- ・生徒が自らの判断で危機を回避できるような能力の育成と、職員が危険を予見し、先手を打てるような安全管理の徹底
- ・熱中症、感染症、食物アレルギー等の今日的な課題に対する職員全員の理解と、全校体制による指導や対応の強化、特に「3密」の回避
- ・綺麗な校舎、教室に対して誇りと愛着をもたせられるよう、学級や学習の様子が感じられる温かみのある教室環境や花と緑のある校内環境の整備
- ・合同引き渡し訓練(地震想定)や不審者対応訓練を通した実践的な安全教育の推進

⑥ 【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・学校支援センターを活用した教育の質の向上
- ・様々な分野における地域のエキスパートや外部機関等の専門家を活用した授業の充実
- ・「沼田大好き！ふるさと学習」の充実による郷土を愛する心の醸成

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主 題 自他を大切にし、よりよく生きようとする生徒の育成
副主題 ～道徳科における「考え、議論する」発問の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・自分の意見を持ち、他の考えを受容したり比較したりして様々な立場と意見があることが理解できるようになってきた。
- ・振り返りの内容が、価値について自分事に置き換えて考えている記述が見られるようになってきた。
- ・多様な意見が出されるようになってきたが、考えを検討するような議論がまだ浅く、道徳的価値の深まりまであと一歩で終わっているような様子が見られる。

指導の在り方との関わり

- ・授業の中で、問い返しによる考えの深まりが見られ、問い返しの発問の重要性を実感することができた。
- ・どの場面でどのような発問を行えば価値への深まり、深い学びにつながるか授業の中で検証を重ね、道徳的価値の深まりが行われるように、さらなる工夫・改善方法を検討していく必要がある。
- ・具体的な授業場面での、生徒の深い学びの見取り方や検証する方法を明らかにし、授業改善に生かしていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

「道徳科において自分の考えを持ち、他者の考え方を受容・比較・検討しながら、自己の生き方を見つめ直そうとする生徒」と捉え、さらにこの生徒像に迫るために、導入と振り返りでの具体的な姿を設定し、その実現を目指す。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・これまでの「深い学び」の実現に向けた「考え、議論する道徳」へさらに質的転換を図るために、昨年度から引き続いて展開部の「多面的・多角的な見方」「自分との関わりでの深まり」に重点を置きつつ、導入部の「自分との関わりで捉え問題意識をもつ」過程にも指導の工夫を広げていく。発問の吟味や効果的なタイミングについての研究を進めていく。
- ・生徒の深い学びに着目した授業研究会の実施と検討を行い、具体的な授業場面での、生徒の深い学びの見取り方や検証する方法を明らかにし、授業改善に生かしていく。
- ・学校経営方針である「自分たちのよりよい学校生活を願い考え、創り出す」生徒の実現を目指し、内容項目 A (3) 向上心、個性の伸長、D (22) よりよく生きる喜び、に重点を置く。
- ・一学年複数公開を通して、学年で一つの授業を作り上げ、授業構成や評価への共通理解を基に授業作りを行う。そこで明らかになった成果と課題を学年間でリレーして研修を深めていく。また、同時に学年職員を授業研究班と評価班の2つに分けて研修を進めることで、学年間の情報交換や共通理解をもてるようにする。
- ・「参観ウィーク」を計画的に実施し、教師同士の学び合いを行い高め合っていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・主発問を導く発問、主発問・問い返しの工夫により、道徳的価値への深まりがみられるようになってきた。
- ・自分の考えを持ち、伝えることができる生徒、学びに向かおうとする雰囲気が育ってきた。

○課題

- ・主発問後、価値への深まりがみられるようになってきた分、最後にもう一歩の深まりが必要であることを感じる。
- ・目指す生徒像に対して、「受容・比較・検討」しながら考えを深めてはいるが、検討の場面で生徒同士が議論して価値理解を深めようとする姿が期待より少ない。

○課題解決に向けての今後の取組み

- ・教師の価値理解をしっかりと行ったり、探求のまとめ前にあと一押し発問の工夫をしたりなど、授業の中で検証を重ねていく。また、効果的な ICT の活用についても研修を進めていく。

3 研修計画・経過報告

月 日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点・明らかになったこと]
4/12①	本年度の研修の確認	○研修主題、研修内容・方法
5/24②	研修内容の共通理解	○目標を具現化した生徒像の検討 ○班別研究の方向性と計画
6/7③	班別研究	○授業研究班 授業構想シートと授業づくりの視点 ○評価班 評価の設定と見取り方
6/28④	授業研究会の見取り方	○指導法の工夫や評価方法等の検討
6/28.29.30	3年道徳 「スポーツの力」 希望と勇氣	授 坂本教諭 櫻井教諭 福島教諭
		○考えを深めるための発問の工夫 ・資料を途中で区切ることで、短時間で効果的に状況把握ができていた。 ・予想される生徒の反応は、ほぼ達成できていた。 ・導入での問題意識が的確であり、 最後にもう一度問い振り返ったことで、問題追求的な思考活動 が見られた。 ・教師の 問い返しによって、それぞれの考えを一層深めている様子 や記述が見られた。 ・ICT活用の提案授業（付箋紙での話し合い） ・中心発問の視点に対して「自分と他者にするによって、多面的・多角的になった」と「誰にとって恥ずかしくない生き方なのか絞った方が考えやすい」という両方の意見が出された。 今後何を考えさせたいのかで中心発問の検証を重ねていく。 ・「考え・議論する」生徒の姿を導く手立てを一層工夫する必要がある。そこで、 → グループは聴き合い学習を中心とし、議論がしなくなる発問を工夫していく。 → 探求したくなる問題の発見を導入で工夫する
	 更に考えを深めるための動画視聴	
7/12⑤	講演 『「考え、議論する」 道徳科の授業づくり』 講師 飯塚秀彦教科調査官	・ねらいを設定する際の視点 ・まず第一に 教師の価値理解 が重要 ・価値理解からの主発問と問い返し ・「 テキストマイニング 」の活用 ・ある程度分かっている内容、価値項目は答え探し？ →さらに 納得と発見 が学習
8/25⑥	2学期 計画と方向性検討	○授業計画・授業改善策の検討
9/14.15.16	1年道徳 「裏庭での出来事」 自主自律	授 河合教諭 藤谷教諭 唐沢教諭 深井教諭
	 導入：事前アンケートの結果	○3年授業研究による授業改善策の検証 ・ 中心発問での問い返しにより自分の考えを深く見つけなおす ことができた。 ・中心発問から 価値理解を深めるもう一押し の発問があるとよい。 ・現在の自分の考え（立場）が可視化されると、違う立場との意見交流がされやすくなるのではないかと。 ・ 振り返りの記述に価値への深まり が見られた。 ・学活的でない（価値の押しつけにならない） 終末のまとめ方 ・テキストマイニングを活用した変容の見取りは、 利点 ①生徒は自己の変容、教師は全体の考えの傾向が見取りやすい。 ②全体の考えが端的に可視化され共有しやすい。 ③生徒から出た言葉を使ってまとめがしやすい。
	 まとめ：変容を自己認識する	

			課題点 ①個の変容やその理由が見取れない。 ②おや？と思われる言葉や意見をどう扱うか。
9/27⑧ 10/4⑨	2年道徳 「キャッチボール」 公德心	指 鈴木 元 気教諭	○指導案に基づく授業改善策の検討・模擬授業 (全体会→道徳部会→学年部会)
10/8	授指導主事訪問 B  ロイロノートでの全体共有  生徒の学びの姿での協議		○1年授業研究による授業改善策の検証 ・導入のテキストマイニングや問題点へ線を引くなどの学習活動は、一人一人に意識づけや見通しをもたせるのに効果的であった。 ・多面的多角的な考えはよく出ていた。その意見から問い返しや発問につなげたい。 ・ペアで対話することで、話す内容が整理され考えが深まり、発表に自信がもてていた。 ・ロイロノートでの全体共有の後に、小グループの協働学習から全体に広げていくと、考えや意見が更に深まるのではないか。 ・振り返りが他人に迷惑をかけないなど身近な生活に寄りすぎてしまった。 ・「守らなければならない」から「守っていこう」などの変容もあったが、変容があまり見られなかったため、めあてや課題の設定を更に工夫したい。 ・もう一歩上の価値理解へ深めたい。
11/8⑩	B 訪問成果と課題の確認		○授業研究による授業改善策の検討 ○班別研究のまとめ
11/17	市教育水準(県プレ発表)		○授業研究による授業改善策の検証
12/6⑪	市水準後成果と課題確認		○授業研究による授業改善策の検討 ○班別研究のまとめと来年度の方向性検討
1/11⑫	研修への取組の確認		○これまでの実践のまとめ、成果と課題の確認 ○校内研修アンケートの結果考察
2/7⑬	研修評価と次年度構想		○研修のまとめと次年度の研究内容の検討

○資質向上研修

月日	区分	講師	内容
8/28⑦	生徒支援	S C 阿左見康成 先生	講話「折れやすい生徒の心に寄り添う支援」
毎回	ICT 研修	鈴木 元気 教諭	授業で活用できるタブレット PC ミニ講座
年 3 回	生徒支援	佐藤 紀子 教諭	特別支援に関するミニ講座

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	木樽 一秀	教諭	篠崎 真理	教諭	福島美由紀	スクールカウンセラー	阿左見康成
教頭	上原 昌弘	〃	橋爪 哲也	〃	下田 勝己	スクールソーシャルワーカー	板坂まち子
教諭	桑原 伸明	〃	鈴木 英樹	〃	田村 健介	心の教室相談員	川端 稔
〃	須藤 陽介	〃	瀧澤 裕志	〃	佐藤 紀子	教育 DX 推進	生方 純夫
〃	岡田 秀久	〃	鈴木 元気	〃	山田 美穂	学校教育支援員	小林紀美枝
〃	河合 恵	〃	安藤 千雨	〃	阿部 亮一	〃	萩原ちづる
〃	藤谷 直道	〃	吉川 陽子	養護〃	有坂由紀子	〃	松井 彩
〃	唐沢 大将	〃	坂本 貴洋	補佐事務長	森下 直樹	主任用務員	原田 徳樹
〃	深井 優介	〃	櫻井 陽希				

沼田南中学校

所在地 〒378-0015 沼田市戸鹿野町726番地
電話番号 0278-23-5557 FAX 22-9857
校長名 小室 昌顕

I 学校の経営

1 学校の教育目標

〈基本目標〉 人間尊重の精神を基盤に、地域や国際社会に生きる自覚を高め、心豊かで逞しく活力ある生徒を育成する。

〈具体目標〉 「英知」・・・ 知性を磨き、創意を生かして考える生徒
「礼節」・・・ 秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒
「強健」・・・ 心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒

2 経営方針

- (1) 一人一人のよさを大切に、自己肯定感を高めるための教育活動の推進
- (2) 地域に愛される学校を目指した、家庭・地域ならびに小学校との連携強化
- (3) 各主任を中心とした組織の活性化ならびに教職員間の協力体制の強化
- (4) 全教育活動を通して行う「生徒の命を守り、育てる教育」の推進
- (5) 新学習指導要領を踏まえた教育課程の適正な編成と確実な実践

3 本年度の重点施策

(1) 「知性を磨き、創意を生かして考える生徒」の育成

- ① 習熟度に応じた指導の充実と生徒主体の学び合いの場の確保（問題解決的な学習の推進）及び、ねらいの明確化と振り返り学習の確実な実施
- ② 学力向上正副コーディネーターを核とした組織的・計画的な学力向上への取組、学びのサイクルの確立、読書活動の推進などによる、学習意欲の高揚と学習習慣の確立
- ③ 個に応じた指導の充実、職員及び関係諸機関との連携強化による、特別支援教育の充実

(2) 「秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒」の育成

- ① 情報モラル教育の充実、生徒の心に寄り添う指導体制の構築、相談活動の充実、問題発生時の早期対応ならびに報告・連絡・相談・記録の徹底などによる、積極的な生徒指導の推進
- ② 「考え、議論する道徳」へ向けた授業の工夫・改善や自己肯定感を高められるような特別活動の実施といった、全教育活動における道徳教育の推進と特別活動の充実

(3) 「心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒」の育成

- ① 保健体育科の授業の工夫・改善、自己管理意識の高揚など、心身の健康作りに向けた積極的な取組の推進
- ② 避難訓練の工夫や食生活を中心とした生活習慣の確立による、自律的な生活習慣の育成

(4) 地域に開かれた信頼される学校づくり

- ① 「沼田市に生きる」総合的な学習の時間の計画的な推進、地域人材の活用や体験を生かしたキャリア教育の推進、オリンピック・パラリンピック教育の推進による、特色ある学校づくり
- ② 積極的なボランティア活動など福祉活動の充実による、地域に愛される学校づくり

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

- 主題 道徳的な判断力や実践力を身に付け、主体的に学び合う生徒の育成
副主題 協働で行う、考え、議論する道徳の授業づくりを通して

幼児児童生徒の実態との関わり

- ・話し合いの内容について共有するにとどまり、その考えをもとに生徒一人一人が深く考えることが難しい様子が見られた。
- ・授業の中で本音を言い合うことで多様な価値観に触れ、それぞれが自分で正しく判断し、行動できるようになってきているが、継続していくことで、道徳的な判断力を高めていく必要がある。

指導の在り方との関わり

- ・一人一授業の「成果と課題」の中で、学び合いの場の工夫が課題になることが多かった。授業改善に向けて今後も継続して「学び合いの場の工夫」を授業づくりの重点に据える必要がある。
- ・振り返りカードを評価の場面に使用したが、評価の仕方が学年で異なってしまったので、統一性をもたせられるとよい。

2 研修内容・方法

(1) 具現化した目指す生徒像

道徳科においてお互いの考えから学び合い、自己の考えを深めることで、その場の状況に応じた望ましい判断をすることができる。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・行事等に関連して考えさせたいことを、3～4時間の「ユニット」としてまとめ、学年でのローテーション道徳を行う際、学年での協働による授業作りしてお互いの授業を見合い（一人一授業）、授業づくりを検証することを通して授業改善を図る。
- ・全校共通の一枚ポートフォリオの「振り返りカード」を用いて毎時間の振り返りをし、生徒が自己の成長の過程を実感できるようにし、教師の見取りにも役立てていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

(1) 成果と課題 (○：成果、●：課題)

- 授業をユニットにし、協働で立案することで、発問について深く吟味できた。また、その考えを教師が意図的に取り上げ、学級全体に投げかけることで、ねらいに迫る授業ができた。
- 振り返りシートの使用にも慣れ、生徒も今何を学んでいるかを意識しながら取り組んでいる。
- 意見交流をした際、意見を述べ合うに留まり、そこから広げたり深めたりすることが難しい。

(2) 課題解決に向けての今後の取組

- ・意見を共有し、各自の意見を知った上で交流できるよう、一人一台端末（ロイロノート等）やホワイトボードなどの交流のためのツールの工夫をしていく。
- ・主発問について意見を交流したり、少数派の意見を取り上げたりする教師側の工夫をする。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4. 12	・昨年度までの研修経過に基づいた研修主題、課題、内容、計画の決定(研修進捗会)	○目指す生徒像とそれに向かうための手立ての吟味 ・以前の課題である学び合いの場を改善するには、授業の共同立案やユニット道德の取組を一層進めることが有効である。
6. 7	・研修主題、課題、内容、計画の共通理解(全体会)	○今年度における道德科の授業実践の仕方について ・生徒の成長を見取れるよう、振り返りシートの活用を図る。
6. 14	・一人一授業の実践に向けて(指導案の様式等の確認)	○今年度の一人一授業の行い方についての確認 ・成果と課題を明確にするためには、1つのユニットに焦点を当て、その実践の成果と課題を検討することが必要である。
7. 9	2年道德科 授林教諭(2年諭) ・公正公平な社会の実現 「危険地帯から実りの土地へ」	○ユニットテーマ「公正公平な社会の実現」に迫る授業づくり ・円グラフを用いて心の変化を比較し変容を見取れた。話し合いの場で意見を共有できるよう、教員が工夫する必要がある。
7. 14	2年道德科 授大島教諭(2年諭) ・公正公平な社会の実現 「私は大丈夫」	○ユニットテーマ「公正公平な社会の実現」に迫る授業づくり ・話し合いの視点を明確にしたことで思考が深まった。各自の意見を発表する場がもてるよう展開を工夫する必要がある。
7. 16	2年道德 授平井教諭(2年諭) ・公正公平な社会の実現 「キャッチボール」	○ユニットテーマ「公正公平な社会の実現」に迫る授業づくり ・場面によって役割演技を取り入れ、考えを深められた。さらに深めるにはタブレット等のツールを活用する必要がある。
8. 30	・2学期の校内研修についての確認(職員会議)	○1学期の授業実践の成果と課題と今後の一人一授業の予定 ・1学期の実践上の課題の解消を目指すことが確認された。
10. 4	指導主事訪問Bに向けて(録)	○ユニットテーマ「本当のやさしさとは」に迫る授業づくり
10. 11	1年道德科 指内田教諭 ・本当のやさしさとは 「ユニットのまとめ」	・ユニットのまとめで本当のやさしさについて考えさせ、生徒の変容を促すには、それまでの生徒の思考を的確に把握し、話し合い活動に生かす必要がある。
10. 15	特別支援(知的学級) 道德科 授男沢教諭(1年諭) ・本当のやさしさとは 「くりのみ」	○ユニットテーマ「本当のやさしさとは」に迫る授業づくり ・生徒の実態により、小2の教材を使用して役割演技を取り入れたことで、本時のねらいに迫れた。親切について考える際には、望ましい行動とはどんなものかについて必要がある。
10. 20	3年道德科 授大根田諭(3年諭) ・充実した生活 「礼儀って何」	○ユニットテーマ「充実した生活」に迫る授業づくり ・デジタルとアナログを併用し対話のきっかけができた。一方で、生徒の声を聞き、意識の流れを大切にすることが必要である。
10. 22	1年道德科 授藤井教諭(1年諭) ・本当のやさしさとは 「ネパールのビール」	○ユニットテーマ「本当のやさしさとは」に迫る授業づくり ・ICTを使用して意見を聞き交流していた。使用方法を工夫し、考えの深まりをねらった指導の仕方を考える必要がある。
10. 29	指導主事訪問B 1年道德科 授内田教諭 ・本当のやさしさとは 「ユニットのまとめ」	○ユニットテーマ「本当のやさしさとは」に迫る授業づくり ・意図的な班編制による活発な意見交流で、考えを明確にできた生徒が多かったが、自分の変容を自覚するためにえんたくんの記入方法を決めておく必要がある。

11. 1	3年道徳科 授星野教諭 (3年輪) (特別研修授業実践) ・充実した生活 「思い出のオムライス」	○ユニットテーマ「充実した生活」に迫る授業づくり ・ICTを使い、生徒が気になった意見に焦点化して話し合いをしたことで活発な意見交換ができたが、それをまとめるためにはツールの機能や特性を把握して活用する必要がある。
11. 10	3年道徳科 授松井教諭 (3年輪) ・充実した生活 「二通の手紙」	○ユニットテーマ「充実した生活」に迫る授業づくり ・発問の工夫により話し合いが活性化されたが、生徒の振り返りを共有し、内容項目への理解の深まりをもたせる必要がある。
11. 17	3年道徳科 授宇木教諭 (3年輪) ・充実した生活 「五井先生と太郎」	○ユニットテーマ「充実した生活」に迫る授業づくり ・授業者の体験談により、生徒が興味をもって考えていた。時間確保のため、内容を絞る必要がある。
11. 24	3年道徳科 授小林教諭 (3年輪) ・充実した生活 「ユニットのまとめ (私も高校生)」	○ユニットテーマ「充実した生活」に迫る授業づくり ・振り返りカードの記述を示し、本時で多角的に考える手立てにできたが、話し合いの形式をワークショップのようにして課題についてより深く考えられるようにする必要がある。
1. 11	・研修のまとめ (成果と課題の確認)	○今年度の成果と課題 ・今年度の成果と課題、次年度の研修内容に関するアンケート
1. 31	・紀要「潯標」完成 (次年度の計画・推進委員会)	○次年度の方向性について

※ 授 道徳科以外の一人一授業の実践 初任者研修 (教科別研修) : 家庭科 小林教諭 (12月)
中堅教諭等資質向上研修 : 社会科 田邊教諭 (1月)、治田教諭 (〃)
沼田市教育研究所 : 体育科におけるICT活用 綿貫教諭 (10月)

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	小室昌頭	教諭	綿貫諒太
教頭	根岸敦子	〃	小林美緒奈
教諭	藤井輝美	養護教諭	富澤彩香
〃	星野純一	〃 (育休補)	内田 蛍
〃	大根田光典	事務主任	齊藤 賢
〃	内田 淳	非常勤 (初任研後補充)	森 峯子
〃	平井美千代	非常勤 (教育推進)	小林真理子
〃	林 洋子	支援員	林 佐一郎
〃	田邊真司	〃	林 祥子
〃	男沢紗代	用務員	工藤信悦
〃	松井恒俊	心の相談員	星野浩司
〃	大島 崇	スクールカウンセラー	小林 一郎
〃	治田千晶	校務支援員	村田 誠
〃	宇木智哉		

沼田西中学校

所在地 〒378-0031 沼田市薄根町3580番地
電話番号 0278-22-3055 FAX 0278-22-9858
校長名 井口 昌之

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【学校教育目標】「高い知性、温かい心、たくましい体をもつ生徒の育成」
《目指す生徒像》○向学…自ら学ぶ生徒 ○礼節…思いやりのある生徒 ○進取…挑戦する生徒
《目指す学校像》…生徒が心から「通いたい」と思える開かれた学校
《目指す教師像》…熱意、誠意、愛情のあふれる教師

2 経営方針

- 各主任等のリーダーシップによる機能の充実と明確な役割分担を通じた組織的対応の推進
- 人事評価制度等を活用して教職員の職能成長を図り、一人一人のよさを生かした学校経営の充実
- 学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けての実効力のある確実な実践
- 授業改善の日常化と積極的生徒指導の充実による信頼される学校づくりの推進
- 校務の効率化による多忙化の軽減と風通しのよい職場づくりの推進

3 本年度の重点施策

【本年度の重点目標】「主体性と支え愛の創造 ～3つの気(やる気・勇気・根気)を育てる教育活動の推進～」

3つの「気」
・やる気＝課題解決に向け先の見通しを立て自ら取り組む意欲
・勇気＝弱い自分に負けず正しい判断と人を大切にする思いやりの心
・根気＝目標達成に向け諦めずに取り組む粘り強さ

(1) 「高い知性」の育成(やる気) 【振り返り学習】【沼田市・先生の日】

- ① 単元の目標や一単位時間のねらい・見通しの明確化と課題の工夫を取り入れた主体的な学習活動の推進
- ② 自己の考えを広げ深める対話的学びの工夫と1人1台端末の活用促進
- ③ 授業時間、放課後の補充学習時間、長期休業日等を活用した振り返り学習の工夫
- ④ 道徳教育の推進と数学等のきめ細かな指導の充実
- ⑤ 特別支援学級や通常学級の中の気になる生徒等を中心とした特別支援教育の推進

(2) 「温かい心」の育成(勇気) 【沼田大好き！ふるさと学習】

- ① 「笑顔・あいさつ・親切」を心がけるとともに、小学校と連携した生活習慣の確立
- ② 「自分事として捉え多面的・多角的に考え議論する」特別の教科道徳の授業改善と朝読書の充実や学校図書館の活用による思いやりの心や豊かな感性などの醸成
- ③ ボランティアや職場体験等を通じた地域理解の深化と郷土への愛着の増進
- ④ 生徒がお互いに協力できる支え愛活動の意図的な設定によるいじめ防止活動の推進

(3) 「たくましい体」の育成(根気) 【教育部活】【生徒の命を守り、育てる教育】

- ① 「体力向上プラン」を活用した体育の授業の改善による学校課題の解決の促進
- ② 「心・技・体」の調和、生徒の主体的な取組や礼儀等を重視した教育部活の実践
- ③ 保健の授業や特別活動等を通じた命を大切にする態度と健康で健全な心身の育成
- ④ 生徒会専門委員会や学校保健委員会を活用した生活習慣と健康管理の推進
- ⑤ 感染症予防対策の継続と徹底による健康維持の充実

(4) 安心で安全な環境整備 【セイフティ沼田】【幼小中連携・一貫教育】

- ① 学校安全マニュアルの改訂の継続による実際に機能するマニュアルの構築
- ② 学校支援センターの充実を目指した職員体制と地域との連携の推進
- ③ 温かみのある環境を目指し、掲示物、花、緑など、地域や関係機関と連携したうらおいのある環境の推進
- ④ 食物アレルギーや感染症対策等に関する全教職員の共通理解と協働の充実

(5) 高い専門性を活かし愛情あふれる指導の実践【1割改善と師弟同行】

- ① 本年度の重点の具現化に向けPDC Aサイクルを活用したボトムアップの1割改善の推進(提案型・課題解決型の職員集団の構築)
- ② 同僚性を活かした指導力等の向上と業務改善による多忙化の解消
- ③ 先の見通しを踏まえ師弟同行を基本とし生徒の活動の場に臨み積極的な認知・賞賛

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 豊かで温かい心をもつ生徒の育成
副主題 ～自分の考えを広げ深める道徳科の授業づくりを通して～

生徒の実態との関わり

・生徒一人一人の学力及び学習意欲の差が大きく、資料の内容や道徳的価値を自分事として捉らえることができない生徒が見られる。
・与えられた課題等には真面目に取り組むことができるが、主体的な活動が苦手で、議論を通して自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい生徒が多い。

指導の在り方との関わり

・主体性や自己有用感、学習に取り組む姿勢、共感的な態度など学力の根底にある「豊かな心・温かい心」を高められるようにする。
・道徳的価値を焦点化した発問や問い返しを行うとともに、授業展開を工夫し、自分の考えを広げ深める道徳授業を行っていく。
・考え、議論するための授業構想と手立てを学校全体で共有していく。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・自分事として主体的に考え、判断し、誠実に実行しようとする生徒
- ・思いやりの心をもって人と接し、感謝の気持ちをもって生活できる生徒
- ・正義と公平さを重んじ、きまりを進んで守ることができる生徒
- ・弱さや醜さを克服する強さを持ち、人間として生きること喜びを見いだすことができる生徒
- ・道徳科で学んだことを各教科の学習や学校生活で生かすことができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

○全職員が協働して取り組める推進体制づくり

- ・ローテーション道徳や学年道徳などを行うことによって、互いの授業を見合ったりTTで授業を行ったりする機会をつくり、学年全体でよりよい授業づくりを進めていく。

○道徳科の授業改善と教師の質的向上に向けての取組

- ・授業構想シートを作成し、生徒が自分の考えを広げたり深めたりできる授業を実践していく。
- ・西中スタイルを通して自分の考えを広め深めるための効果的な議論のさせ方について、一人一授業の実践や授業研究会、各部会・全体会での意見交換等を行い、学校全体で共有していく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果：一人一授業の実践を通して、ねらいに迫るための西中スタイルによる議論のさせ方について全体で共有することができた。また、一人一台端末を活用した議論のさせ方について実践を通して検証することができた。
- 課題：生徒が本気で考え議論するような、発問や議論のさせ方の工夫についてより研究を深める必要がある。
- 課題解決に向けての今後の取組：授業構想シートを活用した授業実践を通して、一人一台端末の有効活用、一人一授業の成果を生かした授業改善、生徒が本気で考え議論するような、発問や議論のさせ方についてさらに研究を深めていく。

3 研修計画・経過報告 指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4/19 (月)	全体会(第1回) ・今年度の研修の方向性	○研修の計画・視点等について ・手立てを共有するために授業構想シートを作成しストックする。
5/17 (月)	全体会(第2回) ・年間指導計画の確認	○今年度の研修内容・方法について ・四人組でのバズセッション(西中スタイル)で学び合いを進めていく。
5/28 (金)	授 一人一授業①(佐々木教諭) C-(14)家族愛、家庭生活充実	○KJ法を使った話し合いでの全体発表の仕方について ・タブレットで写真をとり、拡大表示すると意見が見えてよい。
6/3(木)	指導主事訪問A	※コロナ感染症対策のため、中止
6/16 (水)	授 一人一授業②(吉野教諭) B-(8)友情、信頼	○授業参観の視点について ・生徒の様子や変容を通して、発問や手立ての是非を見ていく。
6/21 (月)	全体会(第3回) ・生徒の実態に対する手立て	○NRTの分析及び情報交換、家庭学習の手引きについて ・学習内容や家庭学習の仕方を各教科で考え、指導していく。
7/1 (木)	授 一人一授業③(大澤教諭) A-(1)自主、自律、自由と責任	○考えを深めるための手立てについて ・問い返しをすることで、考えを深めさせることができる。
7/12 (月)	全体会(第4回) ・B訪問授業者・授業内容の検討	○B訪問について ・タブレットを活用した話し合いをする展開にする。
7/14 (水)	授 一人一授業④(青木教諭) C-(11)公正、公平、社会正義	○話し合いのさせ方について ・個人の意見をグループでまとめる際、少数意見の扱いを工夫する。
7/21 (水)	センター研修(自主研修) 校長・研修主任・阿部教諭	○考え、議論する道徳づくりについて ・子ども達が議論するためには、発問が大切である。
8/30 (月)	全体会(第5回) 指 B訪問指導案検討(1回目)	○発問や手立ての検討(展開を中心)について ・ICTを議論するための道具として活用する。
9/9 (木)	授 一人一授業⑤(春日教諭) A-(1)自主、自律、自由と責任	○ロイロノートの活用について ・多様な意見を確認し、考えを広げることに効果的である。
9/21 (火)	授 一人一授業⑥(阿部教諭) C-(10)遵法精神、公德心	○中心発問について ・「どう議論させるか」をおさえ中心発問を設定することが大切。
9/27 (月)	全体会(第6回) 指 B訪問指導案検討(2回目)	○発問や手立ての検討(展開を中心)について ・どうタブレット端末を活用していくかが大切である。
9/30 (木)	授 一人一(代表)授業⑦(兵藤教諭) C-(10)遵法精神、公德心	○アンケートの生かし方について ・導入と学習後の考えを比較することで考えの変容に気付かせる。
10/4 (月)	全体会(第7回) 指 B訪問指導案検討(3回目)	○議論のさせ方について ・考えを深めさせるためにシンキングツールを活用する。
10/18 (月)	全体会(第8回)	○B訪問の進め方について ・生徒の姿を通して検証し、授業研究会での討議はKJ法で行う。
10/20 (水)	授 一人一(代表)授業⑧(宇敷教諭) C-(12)社会参画、公共の精神	○道徳的価値に目を向けさせることについて ・「めあて」と「振り返り」の整合性を図ることが大切。
10/21 (木)	授 指導主事訪問B(石田教諭) A-(1)自主、自律、自由と責任	○考えを広げ深めるための授業づくりについて ・授業構想シートや一人一端末の活用が有効である。

11/15 (月)	全体会(第9回) ・B 訪問を受けて研修内容を検討	○今後の課題について ・表向きの考えの裏側にある本音を引き出す工夫をしていく。
11/24 (水)	授一人一(代表)授業⑨(塚越教諭) B-(7)礼儀	○よいよ授業づくりについて ・まずは指導書の展開を基に授業づくりをするとよい。
11/26 (金)	授一人一(代表)授業⑩(高橋教諭) C-(12)社会参画、公共の精神	○考えを深める授業の終末について ・ねらいについて個々に考えさせることが大切である。
12/9 (木)	授一人一(代表)授業⑪(吉川教諭) C-(12)社会参画、公共の精神	○大型ホワイトボードの活用について ・自由に意見交換ができ、議論を活性化させるよいツールだった。
12/20 (月)	全体会(第10回)	○「沼田市の教育」の執筆に関する検討 ・今年度の研修の報告書を全体で確認した。
1/17 (月)	全体会(第11回)	○今年度の研修の成果と課題の検討 ・成果：一人一台端末の利用など、課題：生徒が本気で考え議論する手立て
2/14(月)	全体会(第12回)	○研修のまとめ(今年度の生徒の変容と来年度への課題について)
3/7(月)	全体会(第13回)	○来年度の研修について

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4~5月	一人一台端末に関する研修	教頭 平形隆正	・一人一台端末の基本的な使い方等
5/24	保健に関する研修	養護教諭 倉澤利佳子	・エピペンの使い方
6/9	一人一台端末に関する研修	市教委主催/NTT 東日本講師	・一人一台端末の使い方
8/5	一人一台端末に関する研修	教頭/(株)LoiLo 鍵本優紀	・一人一台端末の活用法
8/30	特別な支援に関する研修	S C 小林 一郎	・普通学級における特別な支援
10/4	安全に関する研修	安全主任/沼田警察署生活安全課	・不審者対応について

< 職 員 一 覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	井口昌之	教諭	宇敷志穂
教頭	平形隆正	〃	兵藤泰明
教諭	塚越由美子	非常勤(家庭)	櫻井理瀬
〃	青木益巳	〃 (美術)	金子友美
〃	吉川洋之	養護教諭	倉澤利佳子
〃	佐々木真由美	主幹事務長	星野一枝
〃	阿部美穂	教育DX推進	正田由佳
〃	高橋宏輔	用務員	樋口栄二
〃	大澤誠	S C	小林一郎
〃	春日大	部活動指導員	金子功
〃	吉野智彰	校務補助員	渡邊司
〃	石田貫太		

沼田東中学校

所在地 〒378-0002 沼田市横塚町1118番地
電話番号 0278-22-2472 FAX 22-9859
校長名 根岸 浩文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 基本目標 『敬愛』… 個性を尊重し合い、共に個性を生かし合って学ぶ
『誠実』… 感謝と真心をもって実践する
- 目指す生徒像 『自発』… 「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」
『責任』… 「責任のもてる判断、行動をする生徒」
『協力』… 「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」
『礼儀』… 「互いに気持ちの良い生活を求め、実践する生徒」
- 目指す学校像
『さわやかで、笑顔あふれる、魅力ある学校（教師）』
 - ・師弟同行、率先垂範を教育活動の基本に据え、実践する学校（教師）
 - ・教育職としての高い意識をもち、使命感・情熱をもって指導する学校（教師）
 - ・職責に真摯に向き合い職務にあたるとともに、周りへの協力・支援ができる学校（教師）
 - ・生徒一人一人のよさや取組を認め、生徒に自己肯定感をもたせる学校（教師）

2 経営方針

【本年度の重点目標】新しい生活様式の下での教育活動の充実

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育・進路指導の充実
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善

3 本年度の重点施策

〈学校経営方針の(1)について〉【サマースクール沼田】【家族で本を読みましよう】

- ・全面実施となった新学習指導要領に基づく確実な教育課程の編成、実施、評価、改善
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及びカリキュラムマネジメントの充実
- ・育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想
- ・単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
- ・丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による教師力の向上
- ・1人1台学習者用コンピュータを効果的に活用した学習指導の工夫
- ・読書活動の充実とそれを支える図書室の環境整備

〈学校経営方針の(2)について〉【命を守り育てる教育】【教育部活】

- ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実及び全教育活動を通じた豊かな心と実践力の育成
- ・「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の充実
- ・生徒が「自己有用感」を感じられる学年・学級づくり
- ・挨拶・返事・礼儀・接遇等の基本的な生活習慣の充実
- ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）
- ・目標に向かって自主的・主体的に粘り強く取り組む生徒を育成するための教育部活動の充実

〈学校経営方針の(3)について〉【教育部活】【セイフティ沼田】

- ・学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
- ・体力向上プランを踏まえ、教科体育を核とした学校体育の充実
- ・生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進

〈学校経営方針の(4)について〉【沼田市SNSルール】【命を守り育てる教育】

- ・生徒指導委員会を核にした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
- ・取組への「よさを認め、励ます」指導による「自己有用感」の高揚
- ・「個別の教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- ・いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援も含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実

〈学校経営方針の(5)について〉【幼小中連携】【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・家庭と連携した挨拶、早寝早起き、家庭学習等の生活・学習習慣の確立
- ・地域の理解や地域素材を活用した「東中大好き、利南大好き、沼田大好き」ふるさと学習の推進
- ・学校と家庭、地域が連携・協働した教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用
- ・小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
- ・キャリアパスポートを活用した自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進

〈学校経営方針の(6)について〉

- ・信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保
- ・報告・連絡・相談のしやすい風通しのよい職場作りの推進
- ・働き方改革に向けた教職員の意識の高揚と業務の効率化・最適化に向けた具体的な取組の推進
- ・年間を見通した計画的な年次休暇の取得推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成
副主題 ～主体的・対話的で深い学びを取り入れた学習過程の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・知識・技能を生かすという意識が低いため、知識・技能の定着に個人差があり、学びの深まりが不十分である。
- ・思考を伴う課題に対して、主体的に自分の考えを表現する力が弱い生徒が多い。

指導の在り方との関わり

- ・既習事項と結び付けるような、単元及び題材の課題の検討が不十分だった。
- ・生徒の主体的・対話的で深い学びが保障されるように、学習過程を工夫していく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・各教科で身に付けた知識・技能を、問題解決の場面等で相互に関連付けながら、教科の見方・考え方を働かせて活用することができる。
- ・見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、他教科や社会生活で生かそうとすることができる。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・既習事項と結び付けるような、単元及び題材の課題を検討し、めあての提示から振り返りまでの授業構想を工夫していく。
- ・学ぶことに必要感をもちながら(主体的)、自分の思いや考えと他者の思いや考えを比較・関連させる(対話的)場面を設定し、各教科の見方・考え方を働かせて活用(深い学び)させる。

3 研修計画・経過報告 <次ページ以降>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・学校評価アンケートでは、学習の意義や楽しみを感じながら見通しをもって取り組むことができている生徒が94%、自分の考えを表現できている生徒が86%となった。
- ・生徒の興味・関心を引き出す課題設定ができたため、主体的に取り組む姿が見られた。また、グループ学習や一人一台端末の活用などで対話的な学習を行うことができ、各教科の見方・考え方を働かせた深い学びにつなげることができた。
- ・振り返りの記述内容の質が高まり、日常にどう生かしていくかまで考えられる生徒が増えた。

○課題

- ・教科の見方・考え方を働かせた深い学びを実現した状態が生徒にうまく伝わらず、結果として深い学びにつながらない場合があった。
- ・教師の想定した深い学びに生徒が到達していても、発表の際に分かりやすく表現することができず、他の生徒にうまく伝えられないことがあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・教科の見方・考え方を働かせた深い学びを明確にし、それにつなげるための具体的な発問や支援の方法、学習過程の工夫を検討する。
- ・自分の考えを他者に表現する機会を増やし、表現力を高める指導をしていく。

3 研修計画・経過報告

指 指導案検討 授 研究授業・授業研究会

月日	研修計画（内容）	経過報告（○研修の視点・明らかになったこと）
4.19	・校内研修主題の確認	○主題、副主題の検討 ・副主題は「主体的・対話的で深い学びを取り入れた学習過程の工夫を通して」に決定。
5.17	・組織編成、各教科の目指す生徒像、指導案の形式について	・目指す生徒像の検討（教科部会での確認） ・指導案の形式 ・要請訪問Bの授業者の決定
6.14	・年間の授業予定 ・授業者の確認	・研修計画等の確認 ・1人1授業実施日の検討 ・1人1授業の授業実践について
6.22	授 数学科 田村教諭	○深い学びにつながるような課題設定の工夫 ・身近にある教科横断的な課題だったため、生徒の興味・関心を引き出せた。
6.23	授 理科 吉野教諭	○実験の考察で対話的な活動を取り入れた学習 ・視覚的に印象に残りやすい実験だったため、その後の交流が意欲的に行われた。
6.25	授 保健体育科 植木教諭	○ICT機器を活用して自己の課題を克服する学習 ・タブレットを活用することで、自己の課題を克服するための練習に主体的に取り組むことができた。
7.1	・指導主事要請訪問A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
7.19	・指導主事要請訪問Aを受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
8.30	・2学期の予定 ・要請訪問Bについて	・2学期の研修予定について ・要請訪問Bまでの計画の確認 ・指導案の形式、授業構想について
9.13	指 要請訪問B指導案検討①	・授業の視点と校内研修との関わりについて ・単元、指導方針、授業構想について ・音楽科における深い学びについて
9.30	授 理科 星野教諭	○既習事項を活用する問題解決的な学習 ・生徒の意見を紹介したり、様々な形態で交流させたりする対話的な学習を通して、ねらいを達成させることができた。
10.1	授 社会科 津久井教諭	○時代の特色を様々な資料から考察させる学習 ・ヒントの提示や教師の声かけ、生徒同士の学び合いなどにより、様々な資料から自分なりの考えをもつことができた。
10.4	指 要請訪問B指導案検討② ・要請訪問Bに向けて	・授業の視点、指導計画、評価項目について ・主体的・対話的で深い学びについて ・1時間の授業の流れの確認、時間配分について ・予想される生徒の反応と具体的な支援について
10.6	授 英語科 林教諭	○関係代名詞を用いる英文作成に向けたICT機器の活用の工夫 ・シンキングツールを有効に活用することで、文の構成を自分なりに工夫しながら考えることができ、主体的な取組につながった。
10.15	授 社会科 高橋教諭	○ICT機器を活用した対話的な学習 ・ロイロノートを活用してジグソー的な活動を行ったことは、生徒の主体的・対話的な学びにつながった。
10.21	授 数学科 町田教諭	○ICT機器を活用した問題解決的な学習 ・ヒントカードをロイロノートで配布することで、

		自分の進度に合わせて有効に活用することができた。
10.22	授 国語科 登坂教諭	○ ICT 機器を活用して発表内容を整理する学習 ・フィッシュボーン図を用いることで、見直しをもって情報を整理することができ、生徒の主体的・対話的な学びにつながった。
10.25	・指導主事要請訪問 B 授 音楽科 南雲教諭	○ 合唱の録音を聴いてよりよい音楽表現の工夫を考える学習 ・観点が班ごとに絞られて明確だったため、主体的・対話的な活動ができた。 ・知覚と感受を意識して深く考えられたため、音楽表現を工夫した合唱をすることができた。
11.24	授 技術科 内田教諭	○ 主体的に取り組める課題設定の工夫 ・身近な題材を扱い、試行錯誤して確認しながら取り組める課題だったため、生徒が主体的・対話的に活動することができた。
12.7	授 英語科 高坂教諭	○ ICT 機器を活用したポスター記事作成の学習 ・ロイロノートを活用して対話的な学習を行ったことで、班の意見を短時間でスムーズに集約することができた。
12.20	・アンケート、研究紀要について	・アンケート配布 ・研究紀要（翠松）について
1.24	・アンケートのまとめ	・成果と課題、生徒の変容の確認 ・沼田市の教育について
2.14	・来年度の研修について	・来年度の研修の方向付け ・年間指導計画・評価計画の修正

【その他の研修】

月日	区 分	講 師	内 容
5.17	chromebook の使い方	外部講師（業者）	・ google classroom 及びその他機能について
5.24	主体的に学習に取り組む態度の見取り方	研修主任	・授業で使用している振り返りシートなどの紹介
6.14	アレルギー対応	養護教諭	・アレルギー対応（救急体制） ・熱中症対応について
6.28	ゲートキーパー研修	SC	・ゲートキーパーについて
11.22	学校侵入者への対応	生活安全課	・学校侵入者への対応の仕方について

職員一覧

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	根 岸 浩 文	教 諭	南 雲 祐 樹
教 頭	今 井 幸 生	〃	植 木 毅
教 諭	吉 野 弘	〃（置籍）	松 井 太 郎
〃	林 秀 紀	養護教諭	坂 田 佳 織
〃	町 田 実	〃（育休補）	野 村 珠 希
〃	津久井 仁美	事務長代理	保 坂 歩
〃	田 村 晃 宏	非常勤講師	萩 原 裕 子
〃	星 野 杏 奈	〃	金 子 友 美
〃	登 坂 俊 介	教育 DX	小 林 知 美
〃	高 橋 浩 美	〃	佐 藤 美 香
〃	高 坂 拓 歩	スクールカウンセラー	小 林 一 郎
〃	内 田 共 平	用 務 員	宍 戸 裕 康

池田中学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9330 FAX 23-9273
校長名 阿部 忠博

I 学校の経営

1 学校教育目標

【心の豊かさを求める生徒】 【技の確かさを求める生徒】 【体の健やかさを求める生徒】

2 学校経営方針

「一人一人がきらりと輝る池田中」

(1) 目指す学校像

- ・生徒が充実感をもって学校生活を送る学校
- ・保護者が信頼して任せられる学校
- ・地域が誇りにできる学校

(2) 目指す生徒像

- ・互いのよさを認め合い、礼儀正しく思いやりのある生徒
- ・自ら課題を見付け、自ら考えて積極的に学習する生徒
- ・すすんで体を鍛え、心身共に健康な生徒

(3) 目指す教職員像

- ・生徒一人一人のよさを認め、夢や理想をもたせる教職員
- ・常に専門性の向上を目指し、生徒の個性や能力を伸ばす教職員
- ・保護者、地域、同僚から信頼される教職員

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・協働体制を高め、温かく活力に満ちた学校・学級経営の充実を図る。
- ・連絡・報告・相談を密にし、教育談義のできる明るい風通しのよい環境を作る。
- ・教師の専門性を生かし、「全職員で全生徒をみる」きめ細かな指導を通して生徒の多面的理解を図る。

(2) 豊かな人間性の育成 【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・道徳科を中心として、全教育活動を通して自他のよさを認め合うことのできる生徒の育成を図り、いじめのない学校・学級作りを推進する。
- ・信頼関係を基盤にした生徒指導を推進し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・すすんであいさつ、返事ができ、周囲に笑顔と感謝を表せる生徒を育成する。
- ・生徒主体の行事や委員会活動、いじめ防止活動等を通して、思いやりの心や温かい人間関係を育む。
- ・「池田小中学校 沼田大好き！ふるさと学習」を推進し、郷土のよさを理解し、郷土に愛着のもてる人間性豊かな生徒を育成する。

(3) 確かな学力の向上 【振り返り学習】【沼田市・先生の日】

- ・ねらいを明確にし、それに沿った学習活動、振り返りの時間を確保することにより一単位時間の充実を図る。
- ・管理職の授業参観を日常的に行い、それをフィードバックすることにより、教師の指導力の向上を図る。
- ・一人1授業の研究授業と授業研究会を通して、若手もベテランも自己の授業改善に取り組む。
- ・生徒に家庭学習の手引きを配付したり、自主学習ノートを毎日提出させたりすることで、家庭学習の習慣化を図る。
- ・各種テストの点数にもこだわり、標準点前年度プラス2を目指す。

(4) 体力の向上・健康増進 【教育部活】

- ・体力向上プランに基づき、視点を明確にした保健体育の授業や体育的行事、部活動指導を継続的に実践することで、持久力や筋力、柔軟性や運動技能を高め、体力の向上を図る。
- ・部活動においては、教育部活の理念に基づいた活動を行い、副顧問の配置や外部指導者の招へいなどにより、安全確保や技術面の向上を図る。
- ・保健だよりや掲示物等による啓発活動を通して、疾病治療率の向上やよりよい生活習慣の定着を図る。また、学校保健委員会の取組により、健康の増進や体力向上を図る。

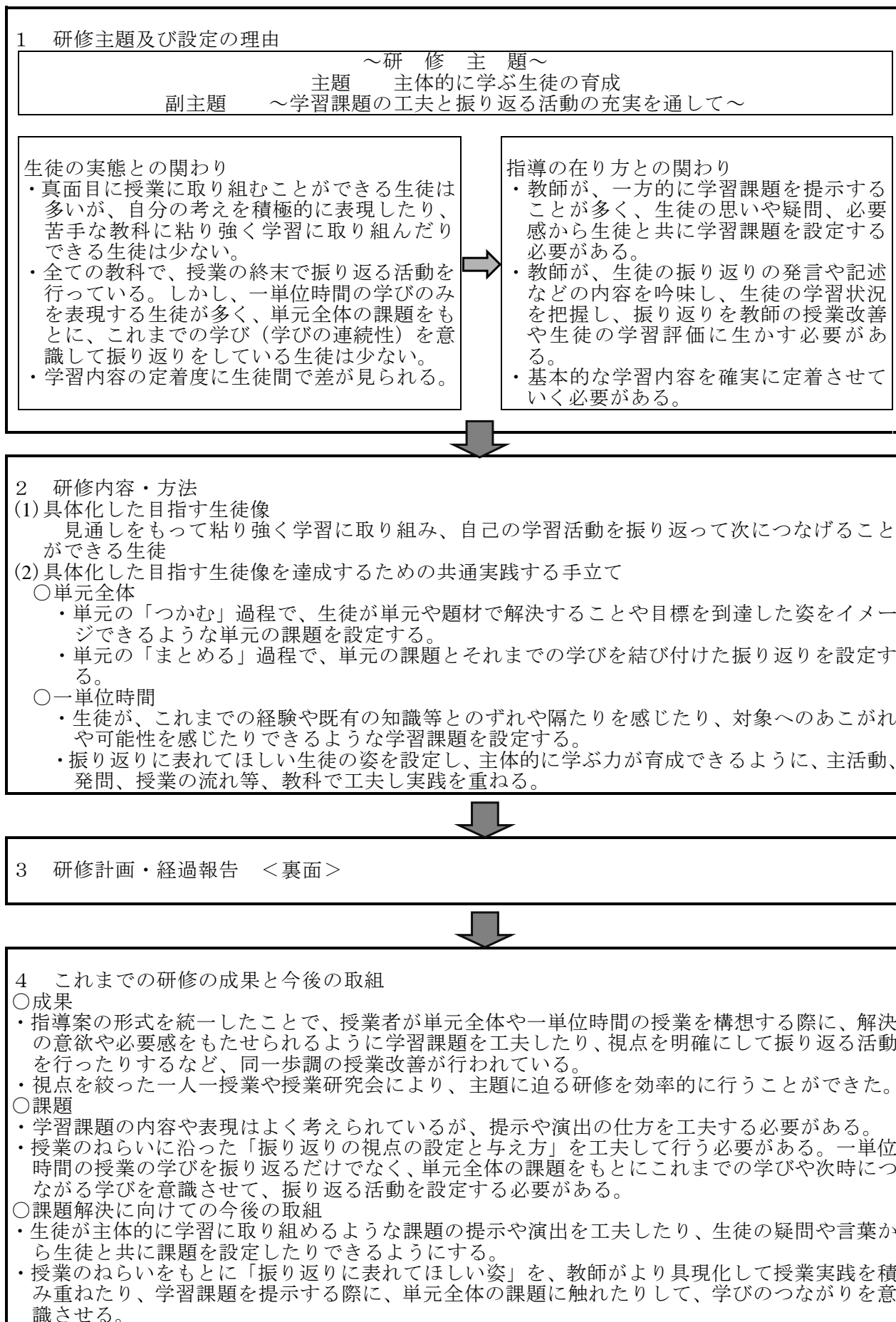
(5) 家庭・地域・小中連携 【小中連携・一貫教育の推進】【家族で本を読みましよう】

- ・小中連携推進会議を年3回開催し、様々なギャップを取り除き、教育効果を上げるための連携を推進していく。また、小中で連携して読書習慣の形成に取り組んでいく。
- ・音楽・美術（図工）における小中兼務での指導を中心に、小中での学びを連続させるとともに、生徒の多面的理解に努める。
- ・駐在所や池田地区防犯パトロール隊等と協力し、地域全体で生徒の安心安全を守る体制をつくる。

(6) 安全教育の推進 【セーフティ沼田】【沼田SNSルール】

- ・避難訓練、交通安全教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。
- ・外部講師の講話やSNS池田ルール、家庭のルールの見直し等を通して、情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動を推進する。

II 校内研修の推進



3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.5	全体会① ・今年度の研修の方向性	○研修の方向性について ○主題・副主題の方向性 ・昨年度の職員や生徒アンケートをもとに、主題と副主題を検討し、研修を進めていく。
4.16	校内研修推進委員会①	○主題・副主題の決定 ○「共通実践する手立て」の吟味
4.26	全体会② ・主題、副主題、「共通実践する手立て」について ・目指す生徒像について	○主題・副主題、「共通実践する手立て」 ○目指す生徒像 ・主題・副主題、「共通実践する手立て」について、全体で内容を確認し、共通理解を図った。また、各教科で主題に迫るための目指す生徒像を設定することを確認した。
5.18	校内研修推進委員会②	○一人一授業指導案形式について ○生徒アンケートの内容検討
5.28 5.31	一人一授業① 授 林教諭 全体会③ 授 林教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・生徒の疑問を生かした学習課題を提示したことで、生徒が必要感をもって課題把握や自力解決に取り組んでいた。活動に「2つに分類する」という条件をつけて考えさせると、生徒が「分類の視点」を思考しやすかったであろう。 ・振り返る活動では、授業に生徒の疑問が生かされたり、毎時間、振り返る活動を継続して行ったりしたことにより、振り返りの意義を理解し、本時の活動の意欲付けにつながっていた。 
6.28	全体会④ ・生徒アンケートについて	○第1回生徒アンケート(6月実施)の結果分析 ・授業でやるべき活動に進んで取り組んでいると感じている生徒や課題に粘り強く取り組んでいると感じている生徒が90%以上いた。 ・学習課題については、生徒がさらに見通しをもてるように内容を工夫したり、学習意欲を高められるように表現や提示の仕方等を考えていったりする必要がある。 ・振り返る活動については、自身の学びを振り返ることを通して、本時の学習内容についてだけでなく、次時以降の学習への学ぶ意欲を高められるような内容や方法を考える必要がある。
7.16 7.19	一人一授業② 授 岡田教諭 全体会⑤ 授 岡田教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・ALTによるモデルの提示があり、目指すべき姿がわかり、生徒が学習の見通しをもつことができるような学習課題となっていた。 ・SpeakingとListeningの技能別に視点が明示されており、生徒が振り返りやすい手立てが講じられていたが、学習課題、評価規準との一貫性と整合性をもたせられるように工夫する必要がある。 
8.30	全体会⑥ 授 奈良教諭	○指導主事訪問Bの授業内容について
9.8	一人一授業③ 授 鈴木教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・学習課題をもとに、音楽の構造を丁寧に確認していたことで、主活動がスムーズにできていた。「Desk Work」ではどうなんだろう?と生徒から出てくるくらいの必要感があると、さらに主体的に学ぶことにつながったのではないかと。 ・振り返る学習では、型を示したことで書けない生徒への支援になっていてよかった。本時の振り返りを、次時以降の生徒の学習意欲にどう繋げていけるかが課題である。 
9.9	一人一授業④ 授 金子教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・人権尊重の視点をもたせるため、つかむ場面でオリンピック等の時事問題を取り上げると、生徒の関心がさらに高まったのではないかと。 ・意見の違いやグループでの話し合ったことについて振り返っていた生徒が多かったが、本時でやった活動を日本国憲法の考えにつながる視点で考えさせると、次時につながるのではないかと。 
9.21	校内研修推進委員会③	○指導主事訪問Bの授業内容について

9.24 9.27	一人一授業⑤ 授 西本教諭 全体会⑦ 授 西本教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・一つの言葉に絞ったことで、焦点化でき活動や目的が明確になった ・提示の仕方が少し一方的な感じだったので、生徒から引き出せるような工夫ができるとよかった。 ・振り返りを発表させ、理由や同様の意見を確認したことで、生徒の考えを広げることができたが、授業の主活動で行った活動が個人内で終わってしまっていたので、班や全体で共有しておけると、生徒の考えが整理され、振り返りの内容もさらに充実したのではないかと。 
10.4	全体会⑧ 指 奈良教諭	○指導主事訪問Bの授業内容について
10.14	指導主事訪問B 授 奈良教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・事前のアンケート、過去の経験が生かされ身近で必要感のある学習課題となっていた。 ・「価値をまとめる段階」と「振り返って考える段階」としっかり分けられていてよかった。とくに、「価値をまとめる段階」で「主張」「尊重」「寛容」の3つのキーワードを提示したことで振り返りの内容が深まった。 
10.22	一人一授業⑥ 授 小野教諭	○「学習課題の工夫」「振り返る活動の充実」について ・ワークシートにより学習活動の見通しが立てられていた。また、補助線を引くことで解決の見通しが立てられていた。既習事項の確認をしてから、学習課題を提示すると、学習課題に対して、さらに必要感をもたせられたのではないかと。 ・学習課題と振り返りの整合性が図れていた。生徒の振り返りの記述に予想された振り返りの姿が表れていた。 
1.24	全体会⑨ ・今年度の研修のまとめ	○今年度の研修の成果と課題について
2.28	全体会⑩ ・来年度の研修の方向性	○来年度の研修（主題・副主題）の方向性について

※資質向上研修

月 日	区 分	講 師	内 容
5.24 6.21 11.1 11.10 1.31 2.7	メンター研修	生徒指導担当（奈良教諭） 道徳主任（林教諭） 教頭 他 S C（阿左見康成） 研修主任（林教諭） メンティー（林、奈良、鈴木教諭）	・各学年の生徒のようす（生徒のよさに注目して） ・生徒のよさが伝わる生徒所見の書き方 ・有意義な三者面談にする保護者対応のポイント ・自己肯定感を高める傾聴の仕方 ・主体的に学習に取り組む態度の評価について ・来年度に向けた生徒指導、学級経営のポイント
4.12	ICT	東日本電信電話株式会社社員	・Chromebookの使い方に関する研修
4.19	学習評価	校長	・学習評価について
11.29	ICT（一人一台端末）	奈良教諭・岡田教諭	・アンケート機能の使い方と授業の実践報告
随時	生徒指導	生徒指導担当	・生徒指導について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	阿 部 忠 博	教 諭	鈴 木 香 穂	非常勤講師	松 井 亮 子
教 頭	小 幡 儀 見	〃	岡 田 莉 奈	非常勤講師	瀧 間 京 子
教 諭	小 野 浩 一	〃	金 子 真 人	非常勤講師	萩 原 裕 子
〃	西 本 一 崇	養護教諭	宮 下 純 香	DX	小曾根理佳子
〃	林 拓 磨	事務主事	関 口 虎 太 朗	SC	阿左見 康 成
〃	奈 良 雅 裕			用務員	石 田 久 米 幸

薄根中学校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町40番地
電話番号 0278-22-3180 FAX 22-9860
校長名 小渕 誠

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標

たくましく豊かな人間性を育て、知性に富む教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成を図る。

(2) 具体目標

- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るい礼儀正しい生徒
- 「英知」 自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒

2 経営方針

○ 目指す学校像

「生徒が充実感をもって学校生活を送る学校」「保護者から信頼され、協力を得る学校」「地域が誇りにできる学校」

○ 目指す生徒像(3つの心の姿勢)

「う」美しい心の姿勢……………自他を大切にし、あいさつができる生徒
「す」進んで取り組む心の姿勢……………自分で決めたことを実行していく生徒
「ね」粘り強い心の姿勢……………目標に向かって努力を続ける生徒

○ 目指す教職員像

「率先垂範を教育活動の基本とする教職員」「社会の変化に対応できる教職員」「使命感・情熱をもって指導し信頼される教職員」

3 本年度の重点施策

(1) 豊かな心と自主性を育てる指導の充実

- ・「特別の教科道徳」の主旨の下、考え・議論するなどの指導方法、指導体制を改善させ、全教育活動を通じた豊かな心と道徳的実践力を育成する。
- ・違いを認め自他を受容し、相手の立場に立って考え、互いの尊厳を認め合う心を育成する。
- ・部活動の意義とねらいを明確にし、目標に向かってねばり強く取り組ませる。
- ・生徒一人一人に心の居場所と役割分担を保証し、充実感のある学年・学級づくりをする。

(2) 確かな学力を身に付けさせる指導の改善と充実

- ・ねらいと評価項目を明確にし、振り返りの時間を取り入れた授業をする。
- ・主体的・対話的な深い学びを促し、学び考える楽しさや喜びを実感させる。
- ・互いに授業を見合う授業研究や教材研究等を通して、授業力を向上させる。
- ・1人1台学習者用コンピュータを効果的に活用した学習活動や学習過程を工夫した授業をする。
- ・適切で効果的な学習課題を設定する等により、家庭学習の習慣化を図る。

(3) 心身の健康の増進と体力の向上

- ・健康リズム、質の高い食事・睡眠を理解させ、基本的な生活習慣の確立を図る。
- ・感染症に対する正しい知識と感染防止の行動を身につけて、自ら実践できる力を育成する。
- ・目標をもたせた指導のもと、保健体育科の授業を重点に部活動等により体力の向上を図る。
- ・学校保健委員会の機能を活用して、心の健康、食育指導の推進を図る。

(4) 生徒指導・特別支援教育の充実

- ・生徒指導委員会を核として全職員の共通理解のもとに、組織力で生徒指導を推進する。
- ・「いじめはしない、させない、許さない」という意識と態度を徹底する。
- ・多面的な視点から生徒理解をし、「よさを認め、励ます」指導により生徒の可能性を伸長する。

(5) 家庭、地域や幼小中の連携、進路指導やキャリア教育の充実

- ・家庭との連携により、基本的な生活習慣や学習習慣を確立する。
- ・地域との連携により、「薄中大好き、薄根大好き、沼田大好き」の特色ある教育活動を推進する。
- ・「なめらかな接続」と「適度な段差」、「子どもを知る、教師を知る、学校を知る、地域を知る」等により、幼小中の連携を推進する。
- ・9年間を見通して主体的に学べるよう、生徒の発達段階に応じた進路指導やキャリア教育の充実に努める。また、夢や希望を育む進路学習や進路相談、職場訪問学習や職場体験学習、高校見学や福祉体験学習等の指導についての工夫・改善を継続する。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的に学びに向かう生徒の育成
副主題 ～単元を通した学習課題の工夫と振り返る学習活動を通して～

生徒の実態との関わり

- ・本校では中堅職員に加え、若手職員が多く活躍している。その中、学習指導や生徒指導、部活動についての悩みを抱えたり、意見交換を求めたりする職員もいると考えている。この中、情報や意見交換、指導などについての話題を豊かに交換する場の設定が大切だと考えている。
- ・本校生徒は授業にまじめに参加し、教師の与えた課題に対して取り組むことができる。しかし自らの学習に対して、課題や目標を把握していない生徒が見られる。
- ・学習に対し、自ら学習を深めたり、見通しを持って学習に向かうことができる生徒は少ない。主体的に学びに向かう生徒の育成は学校の課題でもある。

指導の在り方との関わり

- ・本校では教師全体の資質向上を目指し、メンター研修を行っている。ここでは、教師同士が教え合い、学び合う関係作りが構築できた。この研修の特色でもある異なる年齢層の教師同士の意見交換や、他教科間の意見交流を行い、授業力の向上を目指し、教師としての資質向上に努める。
- ・本校での「振り返る学習」を取り入れた活動は生徒に学びに対しての達成や課題の自覚を促すことができる。これを継続的に行うことで主に生徒の基礎的・基本的な学力を身に付けさせる一助になると考えられ、学習への主体性をはぐくむものとする。
- ・学習指導での単元の構成や課題の工夫を行うことにより、生徒に学習の達成や課題を気付かせることができると考える。この気づきを生徒の学習への主体性へとつなげることで、学びに向かう意識の向上を促す。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

「単元を通しての学習課題」と「振り返る学習」によって自らの学習の達成や課題を知り、主体的に学習に向かうことができる生徒。

(2) 達成するための共通実践する手立て

① 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

1 単元を通した学習課題の工夫

- ・各単元で「単元を通した学習課題」を設定し、生徒が主体的と考えられるような授業構成をする。
- ・教科特性に応じて、以下の3つの学習の中から選び、設定する。

単元を通した学習課題

- ・生徒が主体的に取り組む課題解決学習
- ・学んだ知識を生かした活用・探究の学習
- ・学んだ知識・技能と社会や生活を結びつけた学習

2 振り返る学習の学習活動

- ・振り返りの学習において、教師が見取りたい生徒の姿を明確にする。本校では「振り返る学習」とし、実践する

振り返る学習

- ・授業の終末場面で振り返る学習活動
- ・単元を通した振り返る学習活動

② 本時のねらいが達成されたか、変容が見られたか実践を通して検証する。

③ 学力検査や調査の問題傾向の周知、結果の分析を生かした授業や指導計画の改善に努める。

④ 学習の手引きを配付して授業でも扱い、家庭学習における学習の習慣が身に付くようにする。

⑤ 授業改善の視点を明確にして、メンター部会を中心として指導案検討会・授業研究会を行う。

⑥ 全体会にて教職員の指導力向上を目指し、実態に応じたワークショップを定期的に行う。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○ 成果

- ・各教科における学習課題の工夫、および振り返る学習の実践に取り組むことができた。生徒が学習に対して課題意識をもって授業に取り組む姿を見ることができた。
- ・生徒タブレット利用について研修を深め、課題配布など実践的活用をすることができた。

○ 課題解決に向けての今後の取組

- ・現れてほしい振り返りの姿を指導案の中で明確にし、その姿に近づけるための活動を精選して授業を組み立てる。

3 研修計画・経過報告

月日	研修計画〔容〕	経過報告〔○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）〕
4.08	推1 今年度の研修主題・内容等について	○今年度の研修の方向性を示すと共に、各教科で推進できる内容を吟味した。年間を通した校内研修を計画する。B訪問等、代表授業者の検討をする。 ・教師のキャリアを視点としてメンター部会を構成した。また、教科部会、学年部会の確認も行った。
4.19	全1 研修主題の設定、授業計画立案、研修計画書	
5.09	推2 全体会に向けての準備、連絡など（紙面確認）	○研修推進委員へ紙面による連絡を行った。 ・推進委員会を開く時間をとることができなかったため、紙面開催とした。内容の伝達を過不足なく行うことができた。
5.11	全2 生徒用タブレット研修1	○外部業者による生徒用タブレットについての研修を深めた。 ・生徒用タブレット・アプリケーション各種研修を行った。いくつか授業で必要となるアプリケーションソフトを理解することができた。
5.31	全3 指導主事訪問Aに向けて	○要請訪問が中止となったため、学力テスト分析（NRT テスト）を行った。 ・教科部会に NRT 学力テストの結果について考察を深めた。これにより生徒の実態把握ができた。
6.07	全4 生徒用タブレット研修2 5分間スピーチ	○本校職員による生徒用タブレットを利用した授業紹介を行った。 ・授業用アプリケーション活用方法を紹介されたことで生徒用タブレットの利用について理解を深めることができた。 ○教師の資質向上を狙い、職員による5分間スピーチを行った。 ・職員によるスピーチを行うことで教員同士の人となりを知ることができ、職員間の連携を強める一助となる手応えを感じている。
7.02	授 学年代表2年 林教諭	○「夢の旅」と題してプレゼンテーションを作成し発表する中で質疑応答したり、自分の考えを述べることは生徒の主体的な学習の一助となったか。 ・生徒用タブレットを利用し、生徒がプレゼンテーションを作成したことによって、生徒用タブレット利用における理解を深めることができた。また、生徒用タブレットの機能を利用し、英語発音などの学習意欲や動機づけを行う上で有効であった。
7.05	授 学年代表2年 林教諭 (指導主事訪問) (指導内容は上記7.02と同内容)	
7.05	全5 授業報告 5分間スピーチ	○授業実践における報告を授業研究会の形式で行った。 ・授業研究会の形をとることで、校内研修の方向性と授業内容の整合性を確認することができた。
8.20	全6 職員研修 5分間スピーチ	○服務規律について確認 ・校長よりハラスメント防止についての訓話を行った。参考資料として「ハラスメント防止対策資料」がわかりやすいものだった。 ○評価の考え方（意見交換） ・新しい評価の中で「主体的に学習に取り組む態度」についての情報交換、意見交換を行った。
9.14	全7 職員研修 5分間スピーチ 指導案検討・メンター研修	○B訪問代表授業の指導案検討第一回目を行った。 ○メンター研修では主体的に学習に取り組む態度についての研修を行った。
10.04	全8 職員研修・5分間スピーチ 指導案検討・メンター研修	○B訪問代表授業の指導案検討第二回目を行った。 ○メンター研修では部活指導・給食指導についての研修を行った。
10.07	授 学年代表3年 野崎教諭	○「ALTに自分の好きな有名人を紹介しよう」という単元の課題設定は、生徒が主体的に学習に取り組むために有効であったか。 ・ICTを利用して教師の思考を視覚的に生徒に説明しているのが指導のテンポがよく、授業がわかりやすかった。 ・振り返りの学習シートが単元をとおして使われているので効果的であった。
10.13	授 2-1 道徳 小林教諭	○グループでの意見交流や役割演技を取り入れたことは、異性と信頼し、良い人間関係を築くために大切なことは何かを考えるために有効であったか。 ・学級の雰囲気が良く、異性についてと話しづらい内容でもしっかり意見交換が行われていた。 ・まとめシートや付せんの活用が話し合いの充実につながっていた。
10.15	要請訪問B 武藤教諭	○「経済成長担当者として、経済成長で生じた課題の原因を明らかにしよう」という学習課題を設定し、既習事項や資料・ICTを活用しながら考え、多様な視点を共有させたことは、課題解決に向け

		<p>た考えを深める上で有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入において、パワーポイントを活用して前時までの学習内容を振り返ったことは、生徒が視覚的に捉えられ効果的であった。 ・グループ学習において、各班の考えや他者の意見を知るために ICT を活用したことは、全体で共有したり、確認したりする上で有効であった。 ・グループ編成において、生徒の関心を生かした編成になっていたことにより、話し合いが活発に行われていた。 ・話し合い活動において、資料の精選、提示方法が的確であり、生徒が「話し合いの視点」をもって活動できていた。
10.18	全9 職員研修・5分間スピーチ	<p>○B 訪問代表授業ならびに一人一授業の報告をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を高めるための教材の工夫や、振り返りの学習について授業研究会にて明らかになったことを報告した。
10.26	授 2-2 社会 小野教諭	<p>○ Google スプレッドシートを用いて振り返りを行ったことは、他の生徒の言葉や表現をいかして、次時への見通しに繋がるより深い振り返りとするために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Google スプレッドシートのシート上に単元の課題とめあてを入力しておいたことで、振り返りの際に、単元の課題とめあてを意識しながら振り返りができた。 ・ Google スプレッドシートを用いて振り返りを行ったことで、友だちの考えを瞬時に参考にできるため、普段文章を書くことが苦手な生徒も他の人の文章を参考にしながら、振り返りを記入することができた。
11.13	全10 職員研修・5分間スピーチ	<p>○代表授業ならびに一人一授業の報告をおこなう。</p> <p>○メンター・個人研修をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返る学習についてメンター・個人研修を進めることができた。
12.8	授 2-1 技術 下飯教諭	<p>○新聞記事や図書資料をもとに発電方式の長所短所を調べたことは、発電電源構成を考えることに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入において、パワーポイントを活用して前時までの学習内容を振り返ったことは、生徒が視覚的に捉えられ効果的であった。 ・ICT を活用し、グラフやプレゼン資料を作成させることで生徒の思考を表現させることができた。
12.13	授 1-2 理科 川上教諭	<p>○実験の予想を十分に立てさせ学習の見通しを持たせることは、学習課題を捉えた振り返りを行うことに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てさせることで実験の見通しが立てられ、振り返りの内容が学習課題を捉えたものになっていた。 ・予想と結果を比較して振り返りを行うことができていた。
12.13	全11 職員研修・5分間スピーチ	<p>○中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の中間報告を行った。現在までの進捗状況と今後の見通しについて確認した。
1.11	推2	<p>○紙面開催：アンケート調査、成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の校内研修についてアンケートをおこない、次年度に向けての研修内容について検討した。
2.14	全12 職員研修・5分間スピーチ メンター研修	<p>○メンター研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンター研修による「振り返る学習について」情報交換など
3.14	全13 職員研修・5分間スピーチ メンター研修	<p>○メンター研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンター研修による ICT 機器の利用について情報交換など

〈 職 員 一 覧 〉

職 名		職 名	
校長	小 潤 誠	教 諭	小 野 貴 大
教頭	佐 藤 啓 文	教 諭	野 崎 希 枝
教諭	中 島 美 保 子	教 諭	新 井 久 仁 美
教諭	原 部 泰 章 也	教 諭	川 上 正 人
教諭	阿 部 哲 也	養護教諭	小 野 茂 子
教諭	大河原 幹 夫	主任事務長代理	吉 野 理 恵
教諭	武 藤 光 道 多	学校教育支援員	小 海 さ と 子
教諭	林 秀 多	教育DX推進スタッフ	小 海 敬 子
教諭	原 新 英 樹	スクールカウンセラー	茂 木 恵 理 子
教諭	下 飯 庭 由 美	スクールソーシャルワーカー	板 坂 真 子
教諭	真 庭 林 奈	教 諭	藤 倉 晴 美
教諭	小 竹 内 香 那 子	用 務 員	伊 藤 宏

白 沢 中 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平75-1
電話番号 0278-53-2009 FAX 53-3984
校長名 雲越 誠司

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) **教育目標** 自ら正しく判断する力を養い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を期する。
- (2) **具体目標** (目指す生徒像) ○自主：正しく行動できる生徒 ○勤勉：ねばり強く学ぶ生徒
○奉仕：人のためにつくす生徒 ◎友愛：温かな心をもった生徒 ○健康：心身ともに鍛える生徒

2 経営方針

(1) 基本方針

『広い視野をもち、白沢の未来を創る生徒の育成』

学力・心力・体力を付ける中で自己肯定感をもち、お互いを認め合える人間関係をつくる中で、自己肯定感を自己有用感へと高め、地域を知り愛着をもつ中で、自分を地域で生かしていこうとする生徒を育てる。

(2) 目指す生徒像 《スローガン》「自分自慢、白中自慢、白沢自慢のできる生徒」

(3) 目指す教師像

- 学力・心力・体力を付け、生徒に自己肯定感をもたせる教師
- お互いに認め合える集団をつくり、生徒の自己有用感を高める教師
- 地域を知り、地域の魅力を、生徒に伝え・広める教師

3 本年度の重点施策

(1) 学習指導の充実

めあてや必然性のある課題提示による関連既有知識の活性化（主体的な学び）、交流活動等を通して得た気づきや発見等による知識構造の仮構成（対話的な学び）、まとめ・振り返りによる知識構造の再構成（深い学び）を基本とした授業展開・単元展開を推進する。

(2) 豊かな人間性・社会性の育成

道徳の時間を中核に、実感や感動を伴い、生き方につながる学びができるよう体験学習と連携させた道徳教育を全教育活動の中で推進する。併せて、「考え・議論する」道徳科への質的変換を図る。

(3) 健やかな身体の育成

【教育部活】

生徒の体力・運動能力等の実態を踏まえ、特性に触れ、楽しさを体験できる教科体育を充実させるとともにスポーツに対する関心や意欲を高める。

(4) 安全教育の推進

【セイフティ沼田】【沼田市SNSルール】

実効的な危機管理体制の充実を図り、受け渡し訓練や学校侵入者対応避難訓練、非行防止教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。また、「市SNSルール」、「白沢中SNSルール」を活用し、情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動を一層推進する。

(5) 学社連携・融合の推進

【幼小中連携】【「沼田大好き」ふるさと学習の推進】

学びの連続性を踏まえた、幼小中連携・一貫教育を推進する。また、地域への教育活動の発信と学校公開等を通して、信頼ある学校づくりを進める。

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 学びに向かう姿勢を大切に、考えを深め合う生徒の育成
副主題 ～ICT機器の活用を通して～

生徒の実態との関わり

- 主体的な学び
学ぶことに対して真面目で勤勉であるが、「学びに対する目的意識」と「自立的に学びを進められるだけの学習方策」を両立するまでには至っていない。
- 対話的な学び
意見の交換にとどまっていたり、互いに考えを広げ合ったり深め合ったりするまでには至っていない。
- 深い学び
授業で身につけてきた知識・技能や日常生活から幅広く獲得してきている知識はもっているが、それらは断片的なものであって、統合した科学的で概念的な理解にまでは至っていない。

指導の在り方との関わり

- ・ 生徒が自らの取組と成果を正確に認識しきれていない。
- ・ 評価規準を示し、振り返りを工夫することで、生徒によりよい学びには何をすべきか認識させる必要がある。
- ・ やり取りから考えを深め合うことが少なかった。
- ・ より早くより多く互いの意見を共有することで、考えを深め合う必要がある。
- ・ 知識が断片的で一つの概念としてまとまりがない。
- ・ 既に有している知識を足場に、各教科の「見方・考え方」に沿って過去の学習経験と現在進行形の学習課題とを関連付けられるような指導の工夫が必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

自己を客観的に振り返り課題に対して粘り強く取り組むとともに、他者と共同しながら互いに考えを深め合えることができる。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

ICTを活用した場面で、根拠を明確にして互いの意見や考えを交流させる。

3 研修計画・経過報告 〈次ページ〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 1人1台端末の活用により、より多くより早く互いの意見を共有することができ、活発な話し合いにつなげることができた。
- ・ 振り返りを記入し、整理して蓄積することができた。また、それにすぐにアクセスすることができ、前時に学んだことを本時に生かすことができた。
- ・ 学習の過程や思考の流れを可視化することで、自分のつまずきに気づくことができた。

○課題

- ・ 瞬時に多くの情報を取得できたり、考えを共有できたりするが、その分高い情報活用能力が必要になったり、考えを深めることが難しかったりした。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 導入、展開、まとめといった場面の随所で、効果的なICTの活用をベースに、端末を活用する。
- ・ 既習の内容と未習の内容が関連づけられた活動を計画的に行う。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会 ※質的向上研修

月日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.12	【第1回校内研修推進委員会】	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ・新学習指導要領の下で、教科研修を深める必要がある。
4.19	【第1回校内研修(全体会)】 ・研修の計画、概要の検討	
4.26	・ICT研修 【第2回校内研修(全体会)】 ・目指す生徒像について ・主題設定の理由、ねらい、内容、方法、計画の確認 ・計画立案 ・研究事項の検討	○Chromebookの活用について研修する。 ○生徒の実態や課題から目指す生徒像と研修主題を設定する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要である。また、GIGAスクール構想のために導入された1人1台端末の効果的な活用方法を探っていく必要がある。
5.31	【第3回校内研修(全体会)】 ・1人1授業に向けての研修	○1人1授業実践方法と授業研究の進め方の確認する。 ・計画的かつ組織的に1人1授業を実践し、授業研究を通して、課題を明らかにすることで授業改善に努めることが大切である。
6.7	・指導主事訪問A(未実施)	
6.28	【第4回校内研修(全体会)】 3年B組 「自分と違う考えや立場の中で協力して問題を解決するために必要なことを考えよう。」 授 小林 教諭 (グループA)	○めあてを達成するための有効な手立てとして、ICT機器の活用が適切に行われていたか。 ・瞬時に意見の共有ができるが、考えを深めるための工夫が必要である。 ・瞬時に多くの情報を得られる反面、必要な情報を抽出するのに時間がかかってしまうため、今後いかに情報活用能力を育成していくかが重要な課題になる。
9.6	【第5回校内研修(全体会)】 1年A組 「スリーヒント・クイズを作成する。」 授 飯野 教諭 (グループA) 2年A組 「傾きと切片がともなうグラフをえよう。」 授 萩原 教諭 (グループB)	○ICT機器を活用して、英文を作る活動を行ったことは、英文を作る意欲を高めることに有効であったか。 ・紙のワークシートとICT機器の使い分けの必要性が明らかになった。 ○ICT機器やロイロノートを活用して協働的な学習に取り組ませたことは、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために有効であったか。 ・全体やグループでの共有が早くディスプレイ上に表示できるPCの利点を十分に活用できる。
9.16	2年A組 「『マイ・バラード』に気をつけて指揮しよう。」 授 後藤 教諭 (グループA)	○ICT機器を活用して、録画視聴したことは曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かして曲にふさわしい指揮を工夫して表現するのに有効であったか。 ・録画した動画を視聴し、自分の取り組みを客観視することで、活動に取り組む姿勢や技能について、具体的に課題や良かったところを掴むことができる。
9.27	1年A組 「グループで協力して、気付けたいことを伝えた連続技を目指そう。」 授 角田 教諭 (グループB)	○ICTを活用して、グループ学習で連続技を完成させようとしたことは、思考・判断・表現を培うことに有効であったか。 ・動画で自分の動きを見ることができるので、器械運動ではとても有効な手段である。 ・動画をグループで共有したり、コメントを送り合ったりするとよい。
10.5	1年A組 「赤ワインをエタノールから取り出すにはどうすればよいか。」 授 齋藤 教諭	○各場面においてICT機器を活用し、お互いの考えを交流させたことは、実験に対する自分の考察をより科学的なものにするのに有効であったか。(研究授業〔研究所〕)
10.18	【第2回校内研修推進委員会】	○指導主事訪問Bに関わる指導案を検討する。
10.22	【第6回校内研修(全体会)】 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討①	○授業者の思いやねらいを確認し、研修のねらいを達成するための手立てとなるように指導案検討を行う。
10.25	3年B組 「ジェットスターのおエネルギーの関係について」 授 野上 教諭 (グループB)	○位置エネルギーと運動エネルギーを調べる活動において、ロイロノートを活用して自分の考えや意見交換しながらかつまとめる活動を取り入れたことは、エネルギーの移り変わりを調べる意欲を高めることに有効であったか。 ・他の人の考察をモニターで確認することで、自分とは違う考察の書き方を共有することができる。

11.1	<p>「考えよう。」 2年A組「平家物語」現代が継がれ、親しい人になて考えよう。」</p> <p>授 栞原教諭 (グループB)</p>	<p>○ロイロノートのシンキングツールを活用して学習をしたことは、古典の魅力を考えるのに有効であったか。 ・シンキングツールを活用することで、意見がまとめやすい。 ・板書と大型モニターの使い分けについて吟味する必要がある。</p>
11.8	<p>【第7回校内研修(全体会)】 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討②</p>	<p>○授業者の思いやねらいを確認し、研修のねらいを達成するための手立てとなるように指導案検討を行う。</p>
11.12 11.15	<p>模擬授業① 模擬授業②</p>	<p>・模擬授業を通して、ICT機器の活用場面や方法、板書計画、授業の流れの改善点を明らかにすることができた。</p>
11.24	<p>授 指導主事訪問B 櫻井 慎吾 教諭 1年A組「世界の諸地域(アフリカ州)」 ○アフリカの自立のために優先度について、思考ツールを活用して他者と考えを比較し合ったことは、課題について考察し、考えを深める上で有効であったか。 ・常に確認したい資料は黒板に掲示、一時的に確認したい資料は端末から随時取り出せるようにするという紙の資料とICT活用のバランスがとてもよく吟味されていて、生徒がスムーズに考えをまとめることができた。 ・アンケート機能で授業前と授業後のクラスの意見をグラフで視覚的に比較することで、考えが変化したことがはっきりわかった。 ・少数意見を採り上げて話し合わせたり、なぜその優先度にしたのかという理由をもっと掘り下げて発表したりできるとよかったと思った。</p>	
11.29	<p>【第8回校内研修(全体会)】 ・指導主事訪問B反省 ・改善点の再確認</p>	<p>○研修のねらいを達成するための授業の再確認を行う。 ・B訪問で指導・助言いただいたことを確認し、今後の授業に活かすことを確認できた。</p>
12.13	<p>2年A組【第9回校内研修(全体会)】 授 南雲 教諭 ・指導主事訪問Bを受けての反省 ・改善点の再確認 ・1人1授業実践まとめ</p>	<p>○「最後の晩餐」に描かれた裏切り者のユダを探す活動を行う場面で、ロイロノートを用いて、班の意見を集約し全体で共有したことは、作者が作品に込めた表現の工夫に迫る上で有効であったか。 ・Google Art & Cultureは手元で細部まで絵画を観察することができ、本時の活動だけでなく美術の授業に適したツールであり、活用の仕方も工夫されていたと思った。</p>
1.17	<p>【第10回校内研修(全体会)】 ・本年度の成果と課題 ・来年度のテーマの検討</p>	<p>○研修を振り返り、成果と課題を明らかにする。 ・自分自身の取り組みや研修の成果と課題を振り返り、今年度の研修の成果と課題を確認し、今後の研修の在り方について明確にすることができた。</p>
2.7	<p>【第11回校内研修(全体会)】 ・来年度のテーマの決定</p>	<p>○成果と課題を踏まえ、来年度の研修主題および副主題等を検討する。</p>

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	雲 越 誠 司	教 諭	櫻 井 慎 吾
教 頭	小 曾 根 一 広	教 諭	栞 原 志 乃
教 諭	後 藤 弥 生	養 護 教 諭	小 渕 里 江
教 諭	野 上 和 栄	事 務 主 任	保 坂 洋 介
教 諭	角 田 聡	用 務 員	長 嶋 晶 子
教 諭	飯 野 智	支 援 員	中 澤 かな 子
教 諭	萩 原 正 人	教 育 D X ス タ ッ プ	佐 藤 由 佳 理
教 諭	南 雲 優 人	心 の 教 室 相 談 員	瀧 間 京 子
教 諭	齋 藤 広 大	部 活 動 指 導 員	梅 澤 周 平
教 諭	小 林 周 平		

利根中学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝334番地
電話番号 0278-56-2044 FAX 56-4209
校長名 田村 学

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標

[基本目標] 高い知性と豊かな心をもち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する。

- [具体目標] ○ 向学（知） 〈進んで学ぶ生徒〉
○ 克己（体） 〈心身を鍛える生徒〉
○ 優雅（徳） 〈思いやりのある言動をとる生徒〉

(2) 経営目標

- [目指す学校像] ○利根町の歴史と風土に根ざした、落ち着きと潤いのある学校
○生徒や教職員一人一人にとって、満足感と有用感のある学校
○信頼と秩序のある、家庭や地域に開かれた安全・安心な学校
- [目指す教師像] ○利根中職員として、目標を共有し、互いに支え合い伸ばし合える教師
○生徒への深い愛情をもち、よさや可能性を伸ばす教師
○教育者としての自覚と誇りをもち、保護者・地域から信頼される教師

2 経営方針

- (1) 全教職員が力と心を合わせて、主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の充実:**チーム利根中**
- (2) 「進んで学ぶ生徒」を育てるための、授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (3) 「心身を鍛える生徒」を育てるための、保健体育・部活動の充実と保健指導の推進
- (4) 「思いやりのある言動をとる生徒」を育てるための、人権教育と道徳教育の推進
- (5) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識を育む安全教育の充実
- (6) 小中連携・中高一貫教育、キャリア教育、へき地教育など、地域に根ざした特色ある教育活動の推進

3 本年度の重点施策

- (1) 主体的・組織的な参画態勢の充実に向けて
 - ・職種に応じ専門職としての自覚をもった職務の遂行
 - ・人事評価によるキャリア段階に応じた資質向上と学校運営への参画意識の高揚
 - ・学校評価や行事の反省等を通じて分掌業務の改善・充実を計画的に進める態勢の充実
- (2) 「進んで学ぶ生徒」の育成に向けて
 - ・学力向上委員会を中核とした学力向上対策の組織的・計画的な実施
 - ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力と人間性」の3つの資質・能力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進
 - ・学習の習慣化を図り、自ら学ぶ意欲を高め学び方を身に付けさせる家庭学習指導の工夫
 - ・振り返りによる学習内容の確実な定着【**振り返り学習**】
- (3) 「心身を鍛える生徒」の育成に向けて
 - ・運動の楽しさを味わわせるとともにがんばりぬく強い心を育て、体力向上を図る保健体育の授業の工夫・改善
 - ・生徒の主体性を重視し、取り組む姿勢や成長を評価する部活動の推進【**教育部活**】
 - ・生活ノートを通じた生活習慣指導、全校一斉給食を活用した食育指導、学校保健委員会等による健康な生活への意識の高揚と実践力の育成
- (4) 「思いやりのある言動をとる生徒」の育成に向けて
 - ・道徳教育推進教師を中心とした「特別な教科 道徳」の授業の充実
 - ・多面的な生徒理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」「自己有用感」の育成
 - ・生徒の主体性を生かす生徒会活動と生徒会と連動した学級活動による自治的精神の育成
 - ・読書活動(朝読書・家庭での読書)の推進による豊かな感受性と想像力の育成【**家で本を読みましょ**】
- (5) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識の育成に向けて【**セーフティ沼田**】
 - ・施設・設備の定期点検に迅速に対応するとともに、様々な状況を想定した危機管理体制の充実
 - ・消防署と連携した避難訓練や心肺蘇生法講習、アレルギー事故の未然防止、危機管理マニュアルの実効性を高める訓練や研修等による危険予測・回避能力の育成
 - ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底と「新しい学校生活」の実施
- (6) 地域に根ざした特色ある教育活動の推進に向けて
 - ・学校評価等による保護者や地域の意識の把握、各種だより等による積極的な情報発信
 - ・地域の人材・特色を活かした、総合的な学習の時間や特別活動の実施【**沼田大好き！ふるさと学習**】
 - ・連携型中高一貫教育の推進と小学校との連携【**小中連携・一貫教育**】

基本姿勢 3C 創造 (Creation) 協働 (Collaboration) 意思疎通 (Communication)

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
自ら学び、共に学び合う生徒の育成
～一人一人の「学びに向かう力」を高める授業改善～

生徒の実態との関わり

- ・授業中の課題に真面目に取り組むことができる生徒が多いが、よりよい解法を導いたり、活動をよりよくする工夫を考えられなかったりする生徒がいる。
- ・各種学力調査において向上が見られるものの、その成果を生徒自身が十分に実感できていない。

指導の在り方との関わり

- ・「学びに向かう力」を意欲態度面と学習技能面の2面から捉え、生徒が主体的に学習に取り組んだり、他者との関わりの中から自らの学び方を調整できたりするよう、授業改善をしていく。
- ・ICTを有効に活用するとともに、日々の授業の質を高めることで、学力の向上を生徒自身が実感できるようにする。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・自らの見方・考え方を大切にし、伝え合う活動を通して、自らの考え方を深め、確かな学力を身に付けた生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・授業組立シートを活用したり、「授業参観ウィーク」で互いに授業を見せ合ったりして、生徒が主体的に学べるような授業展開等について検討し、日々の授業改善につなげられるようにする。
- ・生徒一人一人の実態や能力に応じて、ICTの活用や教材等の工夫を図ることで、生徒が学習面での取組において自分の考えをより深められるようにする。

3 研修計画 〈裏面〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・毎月の「授業参観ウィーク」を通して他教科の有効な指導法を研修し、授業改善に取り組んだことが「学びに向かう力」を高めることにつながった。
- ・各教科でペア学習やグループ学習を多く取り入れる授業改善を行ったことで、自ら学びに向かい主体的に学習に取り組もうとする生徒の姿が多く見られた。

○課題

- ・多くの生徒が積極的に話し合い活動に参加できたが、表面的な内容を話し合う活動になってしまい、自らの考え方をさらに深めたり、よりよい方法を考えたりすることが不十分だった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・生徒同士で意見をまとめ、よりよい意見を練り上げる話し合い活動において、自らの学び方を調整する力を高めるための手立てを各教科で考えていく。

3 研修計画・経過報告

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 ・明らかになったこと]
4.12	校内研修主題の提案・検討 研修主題の決定、組織編成 研修計画と内容の確認	○本年度の校内研修の方向性についての確認 ・前年度の成果と課題を共有し、本年度の研修テーマの共通理解を図った。
5.17	一人一授業の計画 生徒の実態分析 学びに向かう力の具体化と共有	・若手教員4名が一人一授業を実践する計画を確認した。 ・NRTの結果を受けて分析を進める方針を確認した。 ・学びに向かう力が高まった生徒の姿を確認・共有した。
5月～ 3月	授 授業参観ウィーク (この月以降毎月第3週)	○授業参観カードの交換による教師の学び合い ・授業改善のための「授業参観ウィーク」の活用を確認した。
7.12	授 一人一授業① (千木良・体育) 授業実践、授業研究会 金子指導主事による指導・講評	○仲間との教え合いによる運動課題の解決学習 ・教え合うポイントを明確にしたうえで、タスクゲームを実践させたことが、活動時間を確保しながら効率的に教え合う生徒の姿につながった。
夏季 休業	生徒の実態分析	○教科ごとに各学年について分析 ・実態や課題を明らかにし、「学びに向かう力」が高まった生徒の姿をイメージしながら、授業改善の手法について考えた。
9.6	授 一人一授業② (齊藤・社会) 授業実践、授業研究会 指 B 訪問指導案検討会① NRTの結果分析と今後の指導方針についての共有	○日本の電源構成を考えることで、主体的に社会を形成しようとする生徒を育成する学習 ・ICT 端末を活用しながら友達の考えを共有したことが、様々な考えに触れたり、自分の考えを深めたりするうえで有効であった。
9.27	授 一人一授業③ (高橋・国語) 授業実践、授業研究会 指 B 訪問指導案検討会②	○ICT 端末を活用してスピーチの構成や表現の工夫について考える学習 ・スピーチの構成を考える活動とその表現を練習する活動を区別することで、めあてを絞り込んだ活動に取り組みせられることが確認できた。
10.18	指 B 訪問指導案検討会③ (井上・道徳) 3年『二通の手紙』	○自分自身の心情の変化に気付くための工夫 ・事前に教材を読ませ、ワークシートに記述をさせることで、中心発問において生徒自身の考える時間と意見交流する時間の確保が必要だと検討した。
11.4	授 指導主事訪問 B (井上・道徳) 授業実践、授業研究会	○個人での学びと全体での共有を繰り返すことで、自分自身の心情の変化に気付く学習 ・ワークシートの工夫によって、生徒の意見の変容とその理由を比較することができた。 ・めあてを提示することで活動のポイントがはっきりし、めあてに戻って活動の意味を確認することができた。
11.22	教育水準向上研究授業の報告	○沼田中学校での ICT を活用した授業を紹介・共有 ・道徳においても ICT 端末を活用することで、生徒全員が意見を表明できたり、他者と意見を比較したりすることが

		容易にできることを共有した。
12.17	授 初任者研修研究授業 一人一授業④（横坂・英語）	○ルービックに基づいてお互いのスピーチをアドバイスし、よりよいスピーチにするための改善点を見つける学習
12.20	成果と課題の共有① 研修のまとめ	○今年度の研修の振り返り ・各学年でどのような学びに向かう力が高まった生徒の姿が見られたかを話し合った。 ・各教科で活用を図った ICT 端末が、学びに向かう力を高めるために有効であったか、課題があったかについて振り返った。
1.17	成果と課題の共有② 研修のまとめ	○今年度の研修の振り返り ・各学年・各教科で学びに向かう力が高まった生徒の姿や効果的な ICT 端末の活用などについて共有した。 ・校内研修を振り返るアンケートを実施し、その成果と課題を明確にした。
3.7	各教科・部会における成果と課題の共有 次年度の研修の方向性の検討①	○校内研修の成果と課題の共有と次年度の研修の方向性 ・各教科の成果と課題を共有し、次年度以降の実践に生かす。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.19	タブレット 端末研修	NTT 東日本 群馬支店社員	○タブレット端末の使用方法についての研修 ・Google Chrome 対話的な学びを行うためのツールの使い方を学んだ。
7.12	A 訪問に 代わる 指導主事訪問	沼田市 教育委員会 金子指導主事	○今年度の研修の方針や授業研究会についての研修 ・毎回の授業で達成できたことが、今後どのように生きていくのかカリキュラムマネジメントを教師がイメージして授業を構想していくことが大切であることを研修から学んだ。
7.19	服務規律の 確保	沼田市 教育委員会 角田管理主事	○夏季休業を迎えるにあたって、服務上注意すべきこと ・具体的な事案を例に、どのような罰に処されるか、それを防ぐためにどうすべきかについて研修した。

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	田村 学	教諭	井上 幸大	非常勤講師	萩原 裕子
教頭	本多 章浩	〃	高橋 香菜	〃	金子 友美
教諭	古田 島 茂	〃	横坂 真優	初任研後補充	星野 桃子
〃	阿部 政	養護教諭	武井 美枝	教育 DX	小曾根 理佳子
〃	小林 千晴	事務主任	片野 恵	スクールカウンセラー	宮澤 美恵子
〃	齊藤 喬	栄養士	反町 玲子	主任用務員	中澤 玲子
〃	千木 良厚				

多 那 中 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732
電話番号 0278-53-2698 FAX 53-3199
校長名 田部井 由美子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標 ◎多那を愛し、未来をきりひらく子

(2) 具体目標【目指す生徒像】

○学び続ける生徒（知） ○思いやりのある生徒（徳） ○たくましい生徒（体）

2 経営方針

(1) 経営目標

小・中全教職員の経営参画（3ワーク）による組織の活性化を図る。

(2) 目指す学校像

ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校（チームたな）

(3) 目指す教師像

小・中の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心を持ち、互いに支え高め認め合える人間性豊かな教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成

【 】は沼田市独自施策との関係

①小中の学びの連続性を意識した学習指導の実施

②小中相互乗り入れ型教科指導の充実（特に技能教科）

③めあての提示と振り返り、基礎・基本の確実な定着【振り返り学習のすすめ】

④校内研修の充実（小中完全融合型の組織活動）による指導力の向上、それによる児童生徒の学力向上【沼田市・先生の日】

(2) 豊かな心の育成

①考え議論する道徳での命の大切さを繰り返し指導【児童生徒の命を守り、育てる教育】

②信頼関係を基盤にした生徒指導の推進と沼田市SNSルールの改善・充実

【みんなで守り、みんなを守る「沼田市SNSルール」】

③家庭等と連携した読書活動の推進（親子読書の充実）【家族で本を読みましよう】

④一人一人の良さを引き出す部活動の推進【教育部活】

(3) 健康の保持増進と安全の確保

①児童生徒の健康と安全を第一に考えた、全教育課程における感染症予防対策の徹底

②各種緊急時避難訓練等の安全指導の推進【セイフティ沼田】

(4) 家庭・地域との連携・協働

①「こどもは宝、地域で育てる地域の学校」の取組【沼田(多那)大好き！ふるさと学習】

(5) 組織マネジメントの充実と職能の向上

①スクラップ&ビルドによる分掌の工夫・改善（特に小中一貫の視点で分掌業務を小中統合）

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研 修 主 題 ～
「自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成」
— I C T を効果的に活用した授業づくり、体制づくり—

児童生徒の実態との関わり

- ・自分の考えをもてるが、多様な視点からのものの見方に気付くことは苦手とする児童生徒が多く、活発な意見交換には至っていない。
- ・互いの追究のよさや問題点に気付き、学びにつなげる意識をもてるようになってきているが、考えを広げたり深めたりする視点からの発言をできる児童生徒は少ない。

指導の在り方との関わり

- ・少人数での学習となるため、教師から多様な視点を示す必要がある。I C T を活用することで学び合いの時間を十分確保し、多様な視点を示した学び合いの充実を図る必要がある。
- ・児童生徒の主体的な活動や学び合いを促す視点からのI C T の有効活用を図るためには、教師の組織的な指導とその蓄積が必要となる。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【低学年】 I C T を使って、自分の考えを発表したり、友達や教師の考えを聞いたりすることができる。
- 【中学年】 I C T を使って、自分の考えを発表したり、友達や教師の考えを聞いたりし、共通点や相違点に着目して分類したり、整理したりすることができる。
- 【高学年】 I C T を使って、自分の考えを発表したり、友達や教師の考えを聞いたり、情報を調べたりして、多様な観点から考えを広げたり深めたりすることができる。
- 【中学生】 I C T のよさを生かして、他者と協働しながら課題の解決や目標の達成に向かうことができる。

(2) 具体化した目指す児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・授業でI C T を活用し、意見交換をする場面を設定する。
- ・組織的な指導を蓄積するために、児童生徒の一人一端末でロイロノートやクラスルームなどを使用した授業実践を行う。

3 研修計画・経過報告 次ページ

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・I C T を活用し意見交流をすることによって、多様な観点から考えを広げられるようになってきた。
- ・動きや音声など消えてしまうものを記録し、客観的に意見交流するという活用や試行錯誤を要する場面での活用などI C T のよさを生かした活用法を蓄積することができた。

○課題

- ・意見交流させることはできたが、出された意見にさらに質問をしたり、考えを合わせたりして、新たな考えをつくったり、よりよい考えを出したりすることには課題が残った。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・I C T での意見交流と話し合い活動のそれぞれのよさを生かして学習活動を計画したり、教師が考えを深めるための発問を工夫したり、I C T 以外の板書やノートを併用したりして考えを深められるようにしていく。

3 研修計画・経過報告 (全:全体会 班:班別協議 校:校種別部会 指:指導案検討)

月日	研修内容	経過報告(○研修の視点・明らかになったこと)
4/14	全①・chromebook 研修① (外部講師)	○ chromebook の使い方 ・基本的な使用法、授業でできること
4/19	全②・研修内容について ・指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について ・目指すべき児童生徒の学びの姿の共通理解
5/17	全③・chromebook 研修②	○ロイロノートについて ・授業でのロイロノートの活用法
6/21	全④・授業実践について ・chromebook 研修③	○一人1授業実践について ・日程、班編成について ○授業での chromebook の活用について ・授業でのロイロノートやスライドの活用法
8/30	全⑤・授業実践について 班①・指①細谷、福島、山岸	○指導案検討会、授業実践、授業研究会の持ち方について ・ICTを活用した授業研究会の方法について ○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
9/6	授 業 実 践 I 中1美術科 福島 「漢字で感じて」	○アイデアの修正にICTを用いてアドバイスを出し合う活動 ・ロイロノートで良いところや改善案を生徒同士で短時間で送り合うことができ、記録が残るので今後の制作に活用できる。カードだけでは十分に伝わらないので話し合い活動も合わせて行っていくとよい。
9/6	中1社会科 細谷 「天平文化」	○生徒が一人ずつ資料を作成、発表する授業づくり ・生徒の作ったスライド資料で授業が進むのでやる気につながり、資料をすぐに見て共有できることもよい。さらに深く考えるための質問を教師が用意しておく必要がある。
9/27	班② 指②阿部、佐藤、高山、渡貫	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
9/30	授 業 実 践 小5理科 阿部 「流れる水のはたらき」	○実験動画を用いての考察 ・教師が撮影した動画により視点を明確にして考察できた。児童の言葉でまとめると良い。ICTを使う場面と、ワークシートやノートに書く場面を使い分ける必要がある。
10/1	II 中1数学科 山岸 「比例と反比例」	○ICTを活用した課題の提示と考えの発表 ・ロイロノートをつかった課題の提示と学習プリントの併用は見通しを保持させる上で有効だった。数式等書き込むにはタッチペンが必要である。
10/11	小4算数科 渡貫 「計算のやくそくを調べよう」	○ICTを活用した課題の提示と考えの発表 ・ロイロノートでの課題提示やタッチペンで書き込むことが数を数えたり計算方法を考える上で有効であった。キャストと場面共有の使い分けを考える必要がある。
10/20	中1道徳 佐藤 「ロコ・ソラーレ メダルへの挑戦」	○考えを深める場面でのICTの活用 ・ロイロノートだと自分の考えを出しやすく、個々の意見の比較や検討もしやすい。付け足しやまとめについては板書の方がやりやすいので工夫が必要である。
10/20	中2英語科 高山 「Program5 Work Experience」	○ICTを活用した課題の提示 ・課題に関連した画像をICTで示したことは生徒の興味につながり、画像と結び付けて繰り返し言うことで学びを深めることができた。端末を活用して、画面を見ながら会話練習をしたが、消極的になってしまった。
10/25	班③ 指③星野、井上、大河原、小林	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
10/26	授 業 実 践 小3理科 小林 「物の重さをくらべよう」	○ICTを活用した課題提示と予想、結果、考察の発表 ・ロイロノートの共有機能を活用し、考えを比較し、差異点や共通点を見つける場面をもうけたことで、活発に意

	Ⅲ		見交流をすることができた。ICT機器の不具合があったので事前準備が必要である。
11/1	校	⑥・B訪問について ①・B訪問指導案検討指	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
11/1	授 業 実 践	小6社会科 井上 「明治の国づくりを進めた人々」	○ICTを活用した課題の提示と考えの発表 ・ロイロノートを活用することで、資料比較、検討がしやすく、児童の言葉から学習問題を作るのに有効であった。画面を見て交流の場面を意図的に設定できると良い。
11/11	Ⅲ	小2生活科 星野 「町たんけん2～グループで出かけよう」	○よりよい発表を考え、交流する活動 ・自分で撮影した写真を用いてロイロノートでまとめたものを友達に発表できていた。良い資料の条件を具体的に全体で共有できると良い。
11/12		小5家庭科 大河原 「食べて元気！ご飯とみそ汁」	○ICTを活用し考え、交流する活動 ・3色分けシートを使ってみそ汁を考えることで、試行錯誤が容易で、字が見やすく交流しやすかった。アイデアを出したり、試行錯誤をしたりする場面では、書くよりも活動がしやすい。
11/15	校	②・B訪問指導案検討指	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
11/30	指 導 主 事 訪 問 B	小5英語科 竹内 「What would you like?」	○やり取りの場面において動画を撮影して見直す活動 ・動画を見直すことで、客観的に自分のやり取りを振り返ることができ、改善点に気付けた。やり取りの組み合わせを工夫して練習時間を増やせば、さらに自信をもって発表できると思われる。
		中1保健体育科 南雲 「マット運動」	○技の完成を高めるための動画撮影とアドバイス活動 ・自分達の演技動画をお手本動画と見比べることで、修正点がよく分かり、それを言語化して伝え合うことが思考・判断・表現の向上につながる。次時の内容を入れず、本時の内容にじっくり取り組んでも良い。
12/13	班	④ 指④金井、千明	○ICTを効果的に活用した授業づくり ・各授業者の研究授業の概要と手立て
12/17	授 業 実 践 Ⅳ	小1学活 金井 「かぜにまけないからだ」	○ICTを活用し、画像を比較する活動 ・ブラックライトを使って洗い残しを見える化し、画像として記録することで、普段の手洗いと正しい手洗いを比較させることができた。画像の比較では、角度、明るさなどの条件をそろえて撮影することが重要である。
1/24	全	⑧・実践の振り返りとまとめ	○今年度の研究の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。
2/28	全	⑨・次年度構想の検討	○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
6/14	保健に関する研修	養護教諭	・事故やアレルギーなど緊急時の対応について
毎月	服務規律に関する研修	服務規律担当	・服務規律について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	田部井 由美子	教 諭	山 岸 信 之
教 頭	須 田 知 広	教 諭	南 雲 寛 樹
教 諭	細 谷 龍 男	教 諭	佐 藤 尚 樹
教 諭	阿 部 万里子	養護教諭	阿 部 香 織
教 諭	福 島 栄 典	S C	青 木 美穂子
教 諭	高 山 誠	教育DXスタッフ	佐 藤 美 香